資　料　編

1.　類似施設利用料金等

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み
　（1）検討経緯
　（2）管理運営実施計画検討懇談会メンバー一覧
　（3）管理運営実施計画検討懇談会発言要旨
　（4）シンポジウム実施報告

3.　プレ事業

4.　整備に関する意見交換会

資　料　編

1.　類似施設利用料金等

岡山芸術創造劇場（仮称）想定料金

	施設名	客席数				開館時間		ホール1 利用料金		ホール2 利用料金		ホール3 利用料金		ホール1 席単価（1ｈ）		ホール2 席単価（1ｈ）		ホール3 席単価（1ｈ）	
		ホール1	ホール2	ホール3				平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
パターン1	岡山市内の平均席単価からの料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	218,400	252,525	139,360	150,800	70,590	73,710	9.6	11.1	13.4	14.5	18.1	18.9
パターン2	岡山県内の平均席単価からの料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	204,750	232,050	137,280	150,800	56,550	62,790	9.0	10.2	13.2	14.5	14.5	16.1
パターン3	近隣施設（中国・四国）の平均席単価からの料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	220,675	261,625	111,280	137,280	41,340	49,530	9.7	11.5	10.7	13.2	10.6	12.7
パターン4	全国・先進施設の平均席単価からの料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	279,825	336,700	173,680	219,440	56,940	69,030	12.3	14.8	16.7	21.1	14.6	17.7

算出方法

1.施設規模、都市規模、建設年、地域性等を踏まえ料金検討の参考とする施設を選出。「岡山市内」「岡山県内」「近隣施設（四国・中国）」「全国・先進施設」の4パターンに施設を分類。
2.ホール料金に冷暖房料金が含まれていない場合、全日冷暖房（冷房・暖房料金が異なる場合高い方を想定）を利用したことと仮定し、冷暖房込の1日あたりの料金を算出した。
3.1日あたりのホール利用料金から1ｈあたりの席単価を算出。各分類の平均席単価を新施設の施設規模「1750席」「800席」「300席」に当てはめ、想定利用料金を算出した。
※1000席以上を「ホール1」500～999席を「ホール2」、499席以下を「ホール3」と仮定。ただし1000席以上のホールが2つ以上ある場合、2番目に大きいホールを「ホール2」とした。

【参考施設】

岡山市内

区分	都市名（設置者）		施設名	客席数			開館年	開館時間		ホール1 利用料金		ホール2 利用料金		ホール3 利用料金		ホール1 席単価（1ｈ）		ホール2 席単価（1ｈ）		ホール3 席単価（1ｈ）	
				ホール1	ホール2	ホール3				平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
市内	岡山県	岡山市	岡山市民会館	1,718	-	-	S38	9:00 ～ 22:00	13.0	171,000	186,500	-	-	-	-	7.7	8.4	-	-	-	-
市内	岡山県	岡山市	岡山市立市民文化ホール	-	802	-	S51	9:00 ～ 22:00	13.0	-	-	140,120	150,710	-	-	-	-	13.4	14.5	-	-
市内	岡山県	岡山市	岡山シンフォニーホール	2,001	-	200	H3	9:00 ～ 22:00	13.0	296,530	355,880	-	-	40,210	48,340	11.4	13.7	-	-	15.5	18.6
市内	岡山県	岡山市	西川アイプラザ	-	-	260	H4	10:00 ～ 21:00	11.0	-	-	-	-	44,115	44,115	-	-	-	-	15.4	15.4
市内	岡山県	岡山市	おかやま旧日銀ホール(ルネスホール)	-	-	298	H17	10:00 ～ 22:00	12.0	-	-	-	-	100,500	100,500	-	-	-	-	28.1	28.1
市内	岡山県	岡山市	岡山県天神山文化プラザ	-	-	270	H17	9:00 ～ 22:00	13.0	-	-			47,000	47,000	-	-	-	-	13.4	13.4
			平均									-	-			9.6	11.1	13.4	14.5	18.1	18.9
			平均値からの新市民会館の料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	218,400	252,525	139,360	150,800	70,590	73,710						

岡山県内

区分	都市名（設置者）		施設名	客席数			開館年	開館時間		ホール1 利用料金		ホール2 利用料金		ホール3 利用料金		ホール1 席単価（1ｈ）		ホール2 席単価（1ｈ）		ホール3 席単価（1ｈ）	
				ホール1	ホール2	ホール3				平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
近隣	岡山県	倉敷市	倉敷市芸文館	-	885	200	H5	9:00 ～ 22:00	13.0	-	-	149,040	165,240	34,992	34,992	-	-	13.0	14.4	13.5	13.5
近隣	岡山県	倉敷市	倉敷市民会館	1,979	-	-	S47	9:00 ～ 22:00	13.0	200,880	217,080	-	-	-	-	7.8	8.4	-	-	-	-
市内	岡山県	岡山市	岡山市民会館	1,718	-	-	S38	9:00 ～ 22:00	13.0	171,000	186,500	-	-	-	-	7.7	8.4	-	-	-	-
市内	岡山県	岡山市	岡山市立市民文化ホール	-	802	-	S51	9:00 ～ 22:00	13.0	-	-	140,120	150,710	-	-	-	-	13.4	14.5	-	-
市内	岡山県	岡山市	岡山シンフォニーホール	2,001	-	200	H3	9:00 ～ 22:00	13.0	296,530	355,880	-	-	40,210	48,340	11.4	13.7	-	-	15.5	18.6
			平均													9.0	10.2	13.2	14.5	14.5	16.1
			平均値からの新市民会館の料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	204,750	232,050	137,280	150,800	56,550	62,790						

近隣施設（四国・中国）

区分	都市名（設置者）		施設名	客席数			開館年	開館時間		ホール1 利用料金		ホール2 利用料金		ホール3 利用料金		ホール1 席単価（1ｈ）		ホール2 席単価（1ｈ）		ホール3 席単価（1ｈ）	
				ホール1	ホール2	ホール3				平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
先進	兵庫県		兵庫県立芸術文化センター	2,001	800	417	H17	9:00 ～ 22:00	13.0	545,000	689,000	216,000	278,000	110,000	137,000	21.0	26.5	20.8	26.7	20.3	25.3
近隣	広島県	広島市	広島市文化創造センター・中区民文化センター(アステールプラザ)(ＪＭＳアステールプ	1,204	613	-	H3	9:00 ～ 21:00	12.0	251,230	275,540	61,410	73,680	-	-	17.4	19.1	8.4	10.0	-	-
近隣	広島県	福山市	ふくやま芸術文化ホール(リーデンローズ)	2,003	-	312	H6	9:00 ～ 22:00	13.0	166,620	199,950	-	-	33,320	39,900	6.4	7.7	-	-	8.2	9.8
近隣	広島県	広島市	広島市文化交流会館(広島文化学園HBGホール)	2,001	-	-	S60	9:00 ～ 21:00	12.0	471,960	511,920	-	-	-	-	19.7	21.3	-	-		
近隣	広島県	東広島市	東広島芸術文化ホール（くらら）	1,206	-	305	H28	9:00 ～ 22:00	13.0	90,500	108,600	-	-	25,500	30,600	5.8	6.9	-	-	6.4	7.7
近隣	広島県	三原市	三原市芸術文化センター（ポポロ）	1,221	-	-	H19	9:00 ～ 22:00	13.0	90,600	108,720	-	-	-	-	5.7	6.8	-	-	-	-
近隣	鳥取県		鳥取県立県民文化会館（とりぎん文化会館）	2,000	500	-	H5	9:00 ～ 22:00	13.0	167,650	201,180	29,130	35,170	-	-	6.4	7.7	4.5	5.4	-	-
近隣	鳥取県		鳥取県立倉吉未来中心	1,503	-	310	H13	9:00 ～ 22:00	13.0	125,740	150,890	-	-	25,140	30,170	6.4	7.7	-	-	6.2	7.5
近隣	島根県		島根県芸術文化センター いわみ芸術劇場	1,500	-	400	H17	9:00 ～ 22:00	13.0	115,600	138,700	-	-	33,600	40,300	5.9	7.1	-	-	6.5	7.8
近隣	香川県	高松市	高松市文化芸術ホール(サンポートホール高松)	1,500	-	312	H16	9:00 ～ 22:00	13.0	178,250	211,060	-	-	60,170	70,350	9.1	10.8	-	-	14.8	17.3
近隣	香川県		香川県県民ホール	2,001	807	-	S63	9:00 ～ 22:00	13.0	190,800	228,960	94,320	113,190	-	-	7.3	8.8	9.0	10.8	-	-
近隣	香川県	観音寺市	観音寺市民会館(ハイスタッフホール)	1,200	-	334	H29	9:00 ～ 22:00	13.0	97,500	117,000	-	-	49,400	59,200	6.3	7.5	-	-	11.4	13.6
近隣	高知県	高知市	高知市文化プラザ(かるぽーと)	1,085	-	200	H14	9:00 ～ 22:00	13.0	139,480	167,340	-	-	27,930	33,520	9.9	11.9	-	-	10.7	12.9
			平均													9.7	11.5	10.7	13.2	10.6	12.7
			平均値からの新市民会館の料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	220,675	261,625	111,280	137,280	41,340	49,530						

全国・先進施設

区分	都市名（設置者）		施設名	客席数			開館年	開館時間		ホール1 利用料金		ホール2 利用料金		ホール3 利用料金		ホール1 席単価（1ｈ）		ホール2 席単価（1ｈ）		ホール3 席単価（1ｈ）	
				ホール1	ホール2	ホール3				平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
政令	新潟県	新潟市	新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)	2,000	903	-	H10	9:00 ～ 22:00	13.0	252,000	336,000	137,000	182,000	-	-	9.7	12.9	11.7	15.5	-	-
政令	静岡県	静岡市	静岡市清水文化会館（マリナート）	1,513	-	292	H24	9:00 ～ 22:00	13.0	132,000	165,000	-	-	54,000	67,500	6.7	8.4	-	-	14.2	17.8
政令	静岡県	浜松市	アクトシティ浜松	2,336	1,030	-	H6	9:00 ～ 22:00	13.0	448,450	448,450	229,380	229,380	-	-	14.8	14.8	17.1	17.1	-	-
政令	京都府	京都市	京都会館（ロームシアター京都）	2,005	716	200	H28	9:00 ～ 22:00	13.0	454,200	592,400	220,300	286,900	61,800	80,500	17.4	22.7	23.7	30.8	23.8	31.0
政令	福岡県	北九州市	北九州芸術劇場	1,269	700	216	H15	10:00 ～ 22:00	12.0	245,980	276,430	132,230	148,630	35,600	40,980	16.2	18.2	15.7	17.7	13.7	15.8
先進	神奈川県		神奈川芸術劇場KAAT	1,200	-	220	H23	9:00 ～ 21:00	12.0	349,720	411,440	-	-	87,550	102,880	24.3	28.6	-	-	33.2	39.0
先進	滋賀県		滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	1,848	804	323	H10	9:00 ～ 22:00	13.0	476,300	666,800	214,400	321,500	71,500	107,100	19.8	27.8	20.5	30.8	17.0	25.5
先進	兵庫県		兵庫県立芸術文化センター	2,001	800	417	H17	9:00 ～ 22:00	13.0	545,000	689,000	216,000	278,000	110,000	137,000	21.0	26.5	20.8	26.7	20.3	25.3
先進	長野県	松本市	まつもと市民芸術館	1,800	-	288	H16	8:30 ～ 22:00	13.5	113,850	148,010	-	-	15,170	19,610	4.7	6.1	-	-	3.9	5.0
先進	岐阜県	可児市	可児市文化創造センター	1,019	-	311	H14	9:00 ～ 22:30	13.5	91,500	91,500	-	-	35,300	35,300	6.7	6.7	-	-	8.4	8.4
全国	北海道	札幌市	札幌市民交流プラザ	2,302	-	228	H30	9:00 ～ 22:00	13.0	491,800	545,900	-	-	51,600	51,600	16.4	18.2	-	-	17.4	17.4
全国	福島県	いわき市	いわき芸術文化交流館（いわきアリオス）	1,840	685	233	H20	9:00 ～ 22:00	13.0	142,100	170,600	68,100	81,700	33,600	40,300	5.9	7.1	7.6	9.2	11.1	13.3
全国	東京都	八王子市	八王子市民会館（オリンパスホール八王子）	2,021	-	-	H23	9:00 ～ 22:00	13.0	214,000	291,000	-	-	-	-	8.1	11.1	-	-	-	-
全国	富山県	富山市	富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）	2,196	-	-	H8	9:00 ～ 22:00	13.0	388,800	453,600	-	-	-	-	13.6	15.9	-	-	-	-
全国	長野県	上田市	上田市交流文化芸術センター（サントミューゼ）	1,650	-	372	H26	9:00 ～ 22:00	13.0	195,900	221,500	-	-	39,700	46,100	9.1	10.3	-	-	8.2	9.5
全国	大阪府	岸和田市	岸和田市立浪切ホール	1,552	-	288	H14	9:00 ～ 23:00	14.0	201,600	239,400	-	-	50,400	63,000	9.3	11.0	-	-	12.5	15.6
全国	大阪府	豊中市	豊中市立文化芸術センター	1,344	-	495	H29	9:00 ～ 22:00	13.0	156,200	187,000	-	-	60,000	72,000	8.9	10.7	-	-	9.3	11.2
全国	福岡県	久留米市	久留米シティプラザ	1,514	-	399	H28	9:00 ～ 22:00	13.0	174,300	198,400	-	-	57,600	65,300	8.9	10.1	-	-	11.1	12.6
			平均													12.3	14.8	16.7	21.1	14.6	17.7
			平均値からの新市民会館の料金	1,750	800	300		9:00 ～ 22:00	13.0	279,825	336,700	173,680	219,440	56,940	69,030						

※ホール1が大ホール、ホール2が中ホール、ホール3が大スタジオ・大練習室にそれぞれ相当すると想定

資　料　編

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み

（1）検討経緯

（2）管理運営実施計画検討懇談会メンバー一覧

（3）管理運営実施計画検討懇談会発言要旨

（4）シンポジウム実施報告

資　料　編

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み

（1）検討経緯

■管理運営実施計画　検討経緯

1　検討懇談会	
第１回	■日　時：平成 30（2018）年 8 月 14 日（火）14 時～16 時 30 分 ■会　場：岡山市役所 7 階　大会議室 ■議　題： （1）事業の概要説明 （2）懇談会メンバー紹介・あいさつ （3）意見交換・検討 ・検討懇談会の進め方について ・管理運営実施計画目次（案） ・意見交換・検討
第２回	■日　時：平成 30（2018）年 10 月 30 日（火）14 時～16 時 40 分 ■会　場：岡山シンフォニーホール　イベントホール ■議　題： （1）懇談会メンバー紹介・あいさつ （2）意見交換・検討 ・『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画（素案） ・意見交換・検討
第３回	■日　時：平成 31（2019）年 2 月 1 日（金）14 時～16 時 25 分 ■会　場：岡山市役所本庁舎 3 階　第 3 会議室 ■議　題： （1）懇談会メンバー紹介・あいさつ （2）意見交換・検討 ・『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画（案） ・意見交換・検討

2　シンポジウム	
名　称	『魅せる』『集う』『つくる』の実現に向けて 『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画策定に関するシンポジウム
概　要	■日　時：平成30 （2018）年12 月16日（日）13 時30分～15 時30分 ■場　所：西川アイプラザ 5階 ホール ■基調講演　「劇場ができるとワクワクする１０のこと」 宮崎 刀史紀 （(公財) 京都市音楽芸術文化振興財団 ロームシアター京都 管理課長） ■パネルディスカッション 出演者 ・宮崎 刀史紀 ・大森 誠一　（NPO法人アートファーム理事長・プロデューサー） 進行・モデレーター ・草加 叔也　(有)空間創造研究所）

資　料　編

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み

　　（2）管理運営実施計画検討懇談会メンバー一覧

『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画検討懇談会
メンバー一覧表

（五十音順）

No.	氏　名		所属等
1	五島　朋子	ごとう　ともこ	鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授
2	坂手　洋二	さかて　ようじ	劇作家・演出家、燐光群代表
3	笹井　裕子	ささい　ゆうこ	ぴあ株式会社　ぴあ総研　所長
4	田野　智子	たの　ともこ	NPO 法人ハートアートリンク代表理事
5	津村　卓	つむら　たかし	上田市交流文化芸術センター（ｻﾝﾄﾐｭｰｾﾞ）館長 兼プロデューサー （一財）地域創造プロデューサー 北九州芸術劇場顧問
6	長谷川　誠	はせがわ　まこと	岡山市表町商店街連盟理事長
7	平井　優子	ひらい　ゆうこ	ダンサー・演出振付家
8	柾木　和敬	まさき　かずよし	声楽家
9	宮崎　刀史紀	みやざき　としき	（公財）京都市音楽芸術文化振興財団 ロームシアター京都管理課長
10	八木　景子	やぎ　けいこ	俳優・Terra岡山芸術会代表

○コーディネーター

草加　叔也	くさか　としや	『岡山芸術創造劇場（仮称）』スーパーバイザー 有限会社空間創造研究所代表取締役

資　料　編

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み

　(3) 管理運営実施計画検討懇談会発言要旨

第１回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会　発言要旨

内　容	第１回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会
日　時	平成 30 年 8 月 14 日（火）14：00～16：30
出席者	○懇談会メンバー：（五十音順） 　五島朋子、坂手洋二、笹井裕子、津村卓、長谷川誠、平井優子、柾木和敬、八木景子 ○コーディネーター：草加叔也

懇　談　会　次　第

1　開会

（1）開会挨拶

（2）事業の概要説明

（3）懇談会メンバー紹介・あいさつ

「岡山芸術創造劇場（仮称）に期待すること」

2　議事・意見交換

（1）検討懇談会の進め方について

（2）管理運営実施計画目次（案）

（3）意見交換・検討

3　閉会

（1）次回の開催予定について

発　言　要　旨

1　開会

事務局（進行）：

第 1 回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会を開会する。

荒島市民生活局長：

検討懇談会の開会挨拶

佐藤文化振興課長：

岡山芸術創造劇場（仮称）整備事業の概要説明

コーディネーター：

懇談会メンバーの紹介にあわせて、「岡山芸術創造劇場（仮称）に期待すること」に対するコメントをお願いする。

五島：
　アートマネージメントを専門にしている。劇場が地域づくりにどのように役に立つか、研究あるいは実践している。岡山に劇場ができると鳥取からも大勢が足を運ぶと思う。積極的に議論に参加していきたい。

坂手：
　劇作家・演出家として活動している。岡山出身であり、岡山市民会館には子どもの頃より親しんでいた。岡山市に創造型の新しい劇場ができることを期待している。海外等の事例も参考にしながら、岡山独自のホールを検討していきたい。

笹井：
　ぴあ総研にて、文化芸術を含む日本全国のライブ・エンタテインメントがどれくらい行われていて、どれくらいの市場規模があるのかを研究している。私も岡山市出身なので、もっといろいろなライブ・エンタテインメントが供給され、市民が楽しめたらいいと思う。産業面、全国的なトレンドや票券管理などの立場から、お手伝いができればと思う。

津村：
　劇場に関わる仕事を行って 35 年になる。市民・県民・国民の財産であり、世界の人たちの共有財である劇場を、新しく建設するにあたり、出来る限りのことを頑張ってやらせていただきたい。

長谷川：
　岡山のまちなかで生まれてまちなかで育った。東京、大阪へといたが岡山に戻り 35 年経った。今は色んな縁で表町商店街の理事長を務めている。
　このたび、千日前に新劇場が建設される。私たちはこれがゴールではなく、むしろ出発であると考え、劇場のオープンに向けて、様々なプロジェクトチームを発足させ、すでに活動を始めている。
　劇場が地域を巻き込んだ動きがどうなるか楽しみにしている。オープンに向けて、またオープン後にも地域を巻き込んでいろんなことをやっていけたらと思う。

平井：
　岡山生まれ岡山育ちで、いまはコンテンポラリーダンスのダンサーや振り付け活動している。劇場では演じる側、創る側として、制作や国内外の劇場と関わる仕事をしている。
　今までの自分の経験で印象に残った劇場などを参考にしながら、岡山に親しみやすい劇場ができたら良いと思う。

柾木：
　近年、オペラ業界でも岡山出身で、ヨーロッパで活躍している歌手は多い。最近、中四国の広域で公演を企画するという考えがでてきているが、まさに岡山の地理、アクセスは中四国の中心となりうる場所だと思う。ヨーロッパの劇場のあり方なども参考にしながらご意見できたらと思う。

八木：
　生まれも育ちも岡山だが、高校卒業以降は東京で役者として活動していた。12 年ほど前に岡山に帰り、今は地方局発信のドラマや、映画出演、舞台の主宰、演技講師等を行っている。
　12 年前、岡山に戻った時に、地域の芸術文化の活性化に少しでも貢献したいという思いで、Terra 岡山芸術会という、次世代に繋がるような企画を運営して進めていく会を立ち上げた。岡山を元気にしたいという思いで活動しているので、作り手・利用者の面から役に立てたらと思う。
　岡山にも優れたアーティスト・作り手がたくさんいる。新しい劇場はそういった方々がより自由な発想で創造できる場や、地域の方に「地方でも面白いものができるな」と思ってもらえるような場所であり、それによって商店街や岡山市がより活性化していったら良いと思う。

コーディネーター：
　本日、都合が合わず欠席されているが、ＮＰＯ法人ハートアートリンク代表の田野智子さんと（公財）京都市音楽芸術文化振興財団ロームシアター京都管理課長をされている宮崎刀史紀さんにも委員を務めていただく。

２　議事・意見交換

コーディネーター：
　本日懇談会は、お手元の資料をもとに進めていきます。
　　資料１　検討懇談会の進め方について
　　資料２　管理運営実施計画目次（案）　を説明の後、個別資料に基づき意見交換を進行

【事業想定案、事業計画のイメージ案などの短期的な事業計画について】

津村：
　市内には岡山シンフォニーホールがあるので、新たなホールは舞台芸術がメインになるだろう。「劇場」と銘打って開館する館としては、特に中ホールの演劇・ダンス公演が少なすぎる。自主事業が年に 1 本か 2 本になっているが、北九州芸術劇場では、中劇場だけで年間 20 作品以上公演している。
　以前も申し上げたが、いま人気のある芝居のツアー公演は、東京の後は大阪の民間ホールか兵庫県芸術文化センターで公演を行い、その次は岡山を飛ばして北九州芸術劇場へと行く。そのような状況の中、岡山に新たな劇場ができるという意味では、チャンスはいくらでもある。北九州、兵庫へと公演を観に行く岡山の方は多い。そこをきちんと受け入れていくことを、劇場として考えないとならない。
　これから先、この国の財産になって行くもの、ダンス・アート、アーティスト等を受け入れていかねば、「劇場というものは一体何なのか」と言われる状況になる。

コーディネーター：
　芸術創造劇場を名乗る以上は、その大義を見せなさいというご指摘だと思う。ここに示しているのは短期的な事業計画であり、まずはこのあたりからスタートして行ってはどうか、と示したものだが不十分とご指摘をいただいた。

津村：
　これでは不十分だと思う。ただし、（事業計画を立てるだけでなく）開館までにどれだけのプロセスが必要になるか、スタッフの育成も含めてしっかり計画して行かなければならない。

坂手：
　劇場は、オープンして 3 年間が勝負になる、という言い方をする人がいます。3 年間何もなかったところに、4・5 年目にヒット作が出ても大抵うまくいかない。劇場は人が創るものなので、「どういう形で、どういう想いでつくったか」というイメージを最初に持っていないと、イメージがないままで固まってしまう。地域の皆さんや全国のアーティストとの連携ができていないまま開館するとうまく行かない。
　この劇場は「創造劇場」と銘打っているが、現在示されている事業モデルでは、「全国の劇場の中では少しは頑張っている」というだけに過ぎない。大ホールに市民会館的な側面があるのは理解しているが、自主制作や合同制作を含み、創造的な場所である中ホール・大スタジオ・大練習室に見合う制作的な事業がほぼないように見えます。「事業全体のうち何％を制作に充てる」といったことを議論していったほうが良い。
　この中には「通年」と書かれているものがあるが、その事業はどこに向かっているのか、月 1 回を積み重ねて、どこに向かってどうしていけるのかというビジョンから考えたほうが良い。
　私も岡山出身なので「岡山はすごいね」「他の地方でやっていないことをやっているね」「こんなの初めて見た」と言わせたい。そのためには頭をひねる必要がある。岡山の人間が、色んな人やものをあわせ一緒に創っていくことが「岡山の個性」というものになって行く。
　今は、どういうビジョンがあるか分からない状態で事業想定をしているので、現行の全国公立劇場のいい

とこ取りをしようとしている。思い切った方針を出すためには、誰が責任を持って創造的な活動をして行くのかを明確にしたほうが良い。
例えば、東京都杉並区「座・高円寺」という劇場は、劇場建設時から劇作家協会が関わっている。劇作家協会と区がパートナーシップ協定を結び、なおかつ独自にアーティスト主導のNPO法人を立ち上げ、指定管理者となっている日本で唯一の劇場である。建設時に最低限求めたことは、創造型劇場であるために、稽古場や道具、衣裳などの製作場等を備えること、また、そのために、一般貸出をしない占有の場を持つとすることである。何度も区と話し合ったが、それを認めていただくことにより、初めてアーティストが主導する創造型劇場が東京にできることになった。
「座・高円寺」にはホールが2つあるが、1つは一般貸出をし、1つは通年で劇場がプログラムを組んでいる。最低限そのくらいの裁量がなければ、責任を持って創造的な事業はできない。
市が「岡山市は他とは違うことをする」とどこまで思っているか、それにかかっている。「創造劇場」を名乗る以上、覚悟を決めていただきたい。

五島：
この資料は「年間の事業計画」であり、「開館初年度の事業計画」ではない。事業数が少ないというご指摘があったが、ここに記載しているのは「施設の中」で行われる事業のみ。実際にはアウトリーチや、地域の商店街や学校と関わることも行っていくだろう。そういったことも示さないと、この劇場が外に向かって活動していくことが見えない。
また、事業の対象が「市民」「青少年」としか書かれていないが、「高齢者」「親子」「男性」「女性」など、対象の顔が見えるイメージがあっても良いかと思う。

【広報活動計画について】
笹井：
広報について網羅的に書かれているが、「誰に対して何を伝えたいのか」を明確にして行くと、分かりやすくなる。ぜひ、広報活動自体も創造的であって欲しい。
例えば、建設工事中の仮囲いに絵を描くなどの企画を行うなど、完成前の段階から参加ができ、わくわく感や期待感を持たせるような創造的なものであって欲しい。

津村：
「誰に対して」というご指摘があったが「誰が創るのか」「誰が演出していくのか」ということも重要。広報も一般的な市政だよりのような紙面では見ないし、響かない。初期の段階で立派なものを作る必要はないが、いかに手に取ってもらうか。どうやって創造して行くかということ。
2019年、2020年あたりは、期待が膨らんで行くためには重要な年になるだろう。「誰が」ということを大切に進めていただきたい。

五島：
「誰が」というのは、すでにプロとして活動しているデザイナー・クリエイターに依頼するというのもあるが、アウトリーチの一貫として、例えば子どもや大学生など将来的に関わってもらいたい人たちと一緒に新聞等を作っていくという方法もあるだろう。

平井：
劇場の愛称は一般公募しないのか。愛称があると親しみやすい。

コーディネーター：
愛称の一般公募は行う方法で検討を進めている。「岡山芸術創造劇場」は、あくまでも施設設置条例の正式名称であり、今後、愛称あるいはキャラクターみたいなものも考えるという話もある。もちろん支援をしてくれるところがあれば、ネーミングライツも可能性があるだろう。

長谷川：

周りの方々から、「本当に市民会館はできるの？」と聞かれるが、工事が始まっていないというのが大きいと思っている。千日前商店街は建替えを機にアーケードを全部取り外すこととなっている。アーケードを取り外して以降、どんな街にするかを早急に考えている。工事が進んで建物が見えてくると、周りも「いよいよかな」と感じられると思う。

アーケードを取り外すことに関してだが、アーケードは皆さんが思っている以上に維持管理経費が掛かる。アーケードの下は市道なので道路占用料を払わねばならない。電灯代や経年劣化による修繕費も掛かる。これらを地元の組合が負担しないとならない。かといって、千日前のみアーケードをつけるというわけにもいかない。先々のことを考えるとアーケードを取るという選択肢しかないというのが現状である。

ただし、雨や直射日光の対策はアーケード以外の方法で考えないとならないだろう。

坂手：

先日、高松に行った際に商店街のアーケードに感心した。岡山もアーケードは整備したほうが良いのではないか。市がアーケードを整備するということも考える余地はないのか。

広報に関してだが、プレ事業についても考えねばならない。プレ事業は「どういう場所にしたいか」というビジョンを知らせたいためのアピールの意味を持つべきだが、確たるビジョンがないと、ただ施設ができるから広報をするだけになる。

例えば、「座・高円寺」もタブロイド版の広報誌を出している。いっけん、紙面の 8 割がまちの紹介で、劇場のことは残りの 2 割しか書いていない。しかし、視野の広い区民との関わりを提示していくことによって、本気で街と付き合うという信用を打ち出している。

岡山は「何を念頭に広報するか」というのが必要。私は「岡山の色」を持ちたいと思っている。いまの岡山は何もせずとも新幹線が停まり、自動車道からの流れもあるので鷹揚に構えている。しかし、本当はもう少し色を出したほうが良いと思う。そうなると、劇場だけのことではなく岡山のことになる。

新劇場の整備には様々な条件があるが、こうやって検討していることと、この条件との間をどう埋めて行くか。そういう意味でも早く方針を決めていただきたい。

【施設管理・運営計画：岡山芸術創造劇場　利用規則（案）について】

津村：

制作サイドから重要なことは、トラックの仕分けをきちんとできるように担保しておくこと。同じ時間帯に 11ｔトラックが「大ホールは 7 台、中ホールは 3 台」など集中した時にも、きちんと捌けないとならない。搬入がきちんとできないと、時間がいくらあっても仕込み・バラシができなくなるので、しっかり担保していただきたい。

中小練習室についてよくあるのが、「10 部屋あります」と言いながら、ほとんどが中途半端な大きさで、演劇やダンスには狭く、音楽には広いという、何を目的に練習室を作ったか分からない施設。使用目的を明確にした状態の練習室ならば、数がたくさんあるというのは重要である。ただし、管理者側は、数が多くなればなるほど大変になる。

オープンロビーについて、これも 1,750 席、800 席、200 席という全てのホールの開演時間が一緒の時のことも考えていただきたい。劇場は、大勢の人を捌くことを考えるとともに、何もやっていなくても人が集って、楽しい空間にならないといけないという、相反すること実現させねばならない。

管理事務室について。例えば事業制作を担当した場合、行き来をする場所が少し離れているだけで、スタッフは劇場内を一日に 2 万歩以上歩くことになる。また、管理をするためには目が届いていなければならない。そうしないと事故が起こる。

スタッフの部屋は、施設計画のなかで一番後回しにされるという昔からの風潮がある。しかし、劇場スタッフは 360 日 12 時間をそこで過ごさなければならない。一番重要とは言わないが、楽屋とかと同じように、窓があって天気や時間、四季が分かるような部屋を整備していただきたい。

利用ルールについてだが、「大ホールは 18 か月前から受付け、中ホールは 13 ヶ月前から受付け」というルールの根拠が不明。「自主事業や必ずやりたい演目を含め、劇場をどう動かしていきたいか」ということ

から、「内部的には何ヶ月前からの受付だと良いのか」ということを考えていっても良いだろう。
割増入場料金については、あまり細かく区切らずに「5,000 円以下、5,000 円以上」という大胆なやり方にして、自由度を主催者に渡したほうが良いのではないか。今はある程度の演目であれば 5,000 円以上するものが多い。
また、文化芸術利用とその他利用については、「文化芸術利用」とは何をもって「文化芸術利用」とするのか。せめて「舞台芸術利用」にできないか。そうすると利用目的によっての扱いの差が明確になるのではないか。

坂手：
津村さんの指摘した「文化芸術利用」ではなく「舞台芸術利用」にする、ということは重要。
ただの講演会やシンポジウムのためだけに、専門的な舞台芸術の設備を備えた施設を使うのは勿体ないということもある。この施設が「舞台芸術に特化した創造劇場」であるということを市民の皆さまに理解を深めていただかなければならない。
中小練習室が 10 室以上とおっしゃっていますが、「座・高円寺」の例で言うとそれが二つのフロアに分かれる。一つのフロアは劇場が主導する創造型に特化し、一般には貸出さないということまでやりこまないと、創造型の劇場にならないだろう。
休館日に関しては、ほぼ休まず、合理的に休館日を作ることで稼働率を上げ収入を上げる。休館日がないことで、労務管理上の課題はあるかもしれないが、創造型の劇場を名乗るのであれば、深夜作業や休みがない期間ということが発生することも考えられる。そういったことに特例で対応するのではなく、最初から少し緩やかにしていただきたい。
入場料に関しては、5,000 円はある程度高いと思う。「座・高円寺」は、全ての演目の入場料は 5,000 円を上限にした。そのため、5,000 円以上のチケット料金をとりたい団体は他のホールを利用している。そういったことでも劇場の色や個性を出していける。ただ、それは岡山にあてはまるとは思われない。
先程プログラムを「誰が」決めるのかという指摘があったが、「座・高円寺」の場合は、劇作家協会と杉並区が提携しており、年間 18 週は劇作家協会のプログラムとして、劇作家協会内で協議してプログラムを決定する。劇作家協会は責任をもって、劇場・杉並区に対して質を担保していかねばならない。互いに良い緊張があるなかでクオリティを高めて行くことができている。
岡山は、「こういうことを全国で初めてやった」という岡山型であり、かつ岡山だけに閉じないというやり方をして欲しい。「こういうことは岡山じゃないとできない」と言われる劇場になって欲しい。

コーディネーター：
休館日の設定については、隔週 1 回程度などの可能性も考えていきたい。

【岡山芸術創造劇場　施設使用料の考え方について】
コーディネーター：
現状の利用料金と比較すると若干高くなるのはご理解いただけると思うが、どの程度が妥当なのか更に検討していく必要がある。利用料金が安くするということは、（劇場を利用しない市民を含め）広く岡山市民が負担するということになる。

五島：
利用料金の想定について、施設規模や都市別に平均値を算出している。しかし、パターン 1、パターン 2 の岡山市内、岡山県内の施設の平均値は、これまで岡山に創造型を掲げた施設はなかったので、現施設の数値と比較しても、あまり意味がない。また、古い施設も多い。
パターン 3 についても同様に、四国・中国地方に施設がなかったためあまり意味がない。比較をするならば全国先進施設の中で、芸術創造機能を担い、コンセプト・ビジョンを持った運営をしている施設と比較するのが順当だろう。パターン 4 も様々な規模の施設が含まれているが、岡山市がこれから目指そうとしている規模や事業と同様の活動をしている施設を参考にすると比較材料としてはパターン 4 程度になるだろう。

八木：
これまでとは異なる目的をもった劇場を造るという意味では、パターン 4 に近い設定でも良いのではないか。利用者側は施設の使い勝手から利用する施設を選ぶ。これまでとは違うメリットがしっかりとあるのならば、使用者側としてはパターン 4 に近い数値でも良いだろう。

コーディネーター：
利用規則、利用料金の話は、創造型の劇場として新劇場を活用する考え方とは若干ずれていることかもしれない。劇場側が、主体的に事業を行うのが創造事業であり、今、検討しているのは広く市民の皆さんに使ってもらうための妥当性の検討である。

坂手：
「座・高円寺」の場合は、運営ルールそのものがかなり特殊です。「座・高円寺」には、ホール 1 とホール 2 の 2 つのホールがあるが、ホール 2 は一般貸出を行っている。ホール 1 は基本的に一般貸出を行っておらず、年間 18 週、劇作家協会にのみ貸出している。利用料金も非常に安価な設定になっている。また、劇場の意思として行って欲しい公演を他団体と提携公演として行う場合も、専用の料金設定がある。

津村：
パターン 4 の料金は、全国的な傾向や、新劇場のスペック、スタッフの力量等を考慮すると決して高くはない。きちんと施設設備の整った劇場で公演を行うと持ち込み機材等の費用が軽減できるため、利用者側に技術と頭脳があれば、確実に全体の制作費は落ちる。
利用料金は設置条例で定められるとなかなか変更できない。将来を考え、受益者負担ということも考えなければ、指定管理者での利用料金制を導入した場合、管理運営が維持できなくなってしまうというリスクの方が大きい。料金設定をパターン 4 以下にすると、後々苦しむことになる。

【市民の参加や協力について】
コーディネーター：
地域との連携について、既に進んでいる「表町商店街活性化プロジェクト」がどんなことを考えており、劇場側がどんなことをやっていけるかをお伺いしたい。

長谷川：
新劇場の開館を「岡山の魅力はなんだろう」と考えていく大きなきっかけにしていかねばならないということで複数のプロジェクトを進めている。
（商店街で行われているプロジェクトの説明）
- オランダおイネ記念館創設プロジェクト
- 鐘撞堂再建プロジェクト
- 空き店舗対策プロジェクト
- 千日前整備プロジェクト
- 魅力創出プロジェクト　など

コーディネーター：
商店街で様々な事業を考えられているので、これから接点をどう作っていくか。北九州芸術劇場での、商店街と一緒に行った事業をご紹介いただきたい。

津村：
（北九州芸術劇場で行われたプロジェクトの紹介：京町商店街との連携プログラム）
商店街のプロジェクトについては、期間を 3 年間と区切りスタートした。
北九州芸術劇場では、劇場のオープンと同時に連携プロジェクトを行うということはしなかった。やはり

劇場が周知されていないと成立しない。お互いの信頼関係を構築した上で、そういったプロジェクトをスタートさせた。

コーディネーター：
海外での劇場と地域との接点についてお伺いしたい。

柾木：
私が公演で行っているのはイタリア、ドイツなどが多い。ヨーロッパのまちの劇場と言えばオペラハウスであり、劇場と密接な施設としては飲食関係である。劇場はまちの中心にあるので飲食店は劇場のスケジュールに合わせて開いている。例えば、スカラ座は「今日の演目は長くないから22時に終わる、その後お客さんが来るから24時まで開けよう」「今日の公演は24時まである、じゃあ朝まで開けようか」など、オペラの終演時間にあわせて営業時間を変えるくらいの柔軟な対応をする。表町も移動店舗でのイベントや、夏祭り・秋祭りなどでも人は集まる。ヨーロッパはそういった素朴な物が多い。

コーディネーター：
夜の岡山の過ごし方、ナイトライフが少し変わっていくきっかけにもなっていければ良いと思う。特に、最近の都市型施設ではインバウンド需要が考えられている。旅行客を受け入れられる経営ということ、またそれをどうまちに返すかもポイントになる。

柾木：
失礼ながら、新劇場の建設予定地には、今は人の流れがない。それをつくる起爆剤になるべき施設でもある。劇場を使う人が一番通うことになるので、使う側との関わりも大事だと思う。

コーディネーター：
城崎国際アートセンターでも劇場と温泉が連携したプログラムを行っている。アーティストから見てどうかお伺いしたい。

平井：
城崎国際アートセンターは劇場というよりも滞在制作をメインにしている。オープンして 4 年目になるが、行くたびにまちの人の受け入れ方が変わってきている。
（城崎国際アートセンターでの取組事例紹介：滞在者、制作者パスでの温泉利用　など）
創造劇場がものを創ることに特化するのならば、滞在型ということも考えると良い。アーティスト側からすると、作品を創作している間は滞在することになるので、些細なことが重要となる。城崎国際アートセンターは、24時間利用できるということもとても助かっている。

坂手：
金沢市民芸術村も24時間利用できる。基本的に市民が管理している施設であり、朝方などにも利用されている。
城崎の場合は、温泉があるという魅力は非常に大きい。まち自体に魅力があると強みが倍化される。私も岡山市で育った人間としては、なんとか岡山の個性を打ちだして、「岡山っていいね」と言わせたい。そういう意味で、城崎の例は、魅力がいっぱいある。
子どもたちや学校も含め、地域ぐるみで取り組んでいくということは重要だと思う。特に劇場は、子供達のものでもある。劇場は公的な開かれた場所として、魅力のある場所で、子供達にどう開いていくか。
「座・高円寺」では、杉並在住の小学校 4 年生全員が、年 1 度「座・高円寺」で演劇を鑑賞する。この取組みも高い評価を得ている。他にも、子どもに特化した取組を何十種類も行っている。
劇場があることによって、人々が「あそこで何かをやっている」「自分もやっても良いのだ」と思えるようなことを考えていくと良い。

津村：
「城崎国際アートセンター」や「座・高円寺」をモデルにすると、誤解が生まれる可能性がある。
それぞれの取り組みを否定しているわけではなく、また取り組むべきとは思っているが、岡山市のあの場所で城崎型のアーティスト・イン・レジデンスは絶対にできない。また、「座・高円寺」のように、岡山市全域の小学生を全員集めるのは不可能である。
取り組まねばならないことだが、良い事例だけをお手本にし、本来劇場がやらなければならないことを手放してしまうと、劇場本来の活動ができなくなってしまうことにもなりかねない。

コーディネーター：
岡山市という政令指定都市の千日前商店街という場所に新しい劇場をつくった時に、何を選択するのが一番良いのかということを整理し、優先順位を決めて進めていかないと3年程度で破綻してしまいます。
「全国での成功事例を模倣すれば良い」という誤解を生んではならない。できること、できないことの仕分けが重要ということです。
最後に、各メンバーから本日の意見交換全体を通して気になる点を一言お願いします。

五島：
「地域との協働」という話のなかで、私は「鳥の劇場」の事例を考えました。「鳥の劇場」という NPO 法人は鳥取で活動をはじめ 12 年程度になるが、年に 1 回国際演劇祭を行っている。2～3 週間程度の期間で外国人を含め約 3,000 人を集客している。
しかし、国際演劇祭には来るが、街を見ずに帰るということが起こってしまうこともあった。そこで、「空き家や空き店舗をいきなり借りるのは難しいが、空いている軒先だけ貸してください」ということで、全県的に出店を募り、雑貨・パン・食べ物などを売るフリーマーケットのようなものを開催した。今年は約 100 店舗が出店し、お互いのメリットになっている。少しずつ積み重ねることで、そういった関係ができるかもしれない。

坂手：
何か思い切ったことを成功させるには、例えば、良い偶然が三つくらいないとできない。
杉並の場合も、キーパーソンとなる人物がいたこと、区が教育に力を入れるという下地があったこと、劇作家協会が杉並区の小学校で子どもたちに演劇を教えるという取組を何年か継続しており信頼関係が構築されていた、などの要素があった。でないと小学四年生全員に見せるという離れ業はできない。
同じことを岡山でやるべきだということではない。岡山には、岡山の独自性がある。その独自性を探していく中で、何ができるかという選択肢が出てくる。
キーパーソンと環境と場所が必要になるが、人が多ければ良いというわけでもない。「岡山型」を探すことが重要である。一つのことを一つの場所できちんと成功させていくということで見せて行くためには、岡山ことをいろいろ知っている人じゃないと難しい。
例えば、岡山の街の意思として、街を動かし再生させたいのか、もっと別なイメージを持っているのか。そのようなことの全てが関係してくる。「岡山のまちづくり」という大きな中で、市民会館や新劇場のことを含めたイメージを持たないと解決しないし、選択肢も見つからないだろう。

笹井：
改めて「創造」とは何を創っていけば良いのかを考えさせられた。市内には長谷川さんが話してくださった商店街での様々なプロジェクトなど、市民の皆さんと一緒に作ってきた種が溢れている。そこをうまく汲んで、一緒に劇場を創っていければと思う。
また、創造型の劇場を支えられる収入を得ることや、効率的な貸出しを行っていくことも求められる。今後、理想と、それを支えるための現実をしっかり考えて行く必要がある。

津村：
劇場は、方向性をもった活動をしながら成熟していく。皆さんが劇場を認知し、「こういうことやってくれませんか」と言ってくるまでには3年～5年の期間がかかる。オープン前からどう成熟度と方向性を見つけ進められるか。そういった計画も、もう少し時間が経ったら作ったほうが良い。

長谷川：
「千日前に劇場ができる」と周知されて以降、それに期待した新しいタイプの店舗も、商店街の中に少しずつできている。岡山らしい文化発信ができるという期待感も出てきている。これからも商店街に新しい動きが起こって行くだろう。千載一遇のチャンスである新しい創造劇場の完成に向けて、今から何ができるか、皆さんのお話を聞きながら勉強していきたい。

平井：
岡山で思うことは、いつも特定の観客しか来ないということである。だが、それは地域性だけでなく、作る側にも責任があるし、劇場の取り組みも関係している。
「これからの観客を育てて行く」という話もあったが、「劇場は楽しい場所だ」ということを幼い頃から体感してもらえる場所になったら良いと思う。また、アーカイブなども充実させて欲しい。

柾木：
東京の劇場でも、オペラ企画を独自に行っている劇場はほぼ無い。「オペラ公演ができるというのは、ホールの格の問題だ」と言う人もいる。
新しい劇場でオペラ公演が行えれば、西日本全体で話題になるだろう。市民参加をしたり、アカデミーを作ったり、学校公募を行ったり、音楽専科のある高校と連携したりなど、オペラを軸とした企画もできる。岡山市民がたくさん関わるというのも「岡山らしさ」でもあると思う。
前にも申し上げたが、文化団体は横の繋がりがない。また市内には企画力のあるホールが複数あるが、そのホール同士もアウトリーチ、アカデミーなど独自の展開をしている。そういったことと、横の繋がりをつくりだしていけるような劇場であることを期待する。

八木：
単に劇場ができるからではなく、岡山の人が協力して街をつくって行く、その中心に劇場があると思う。多くの方に協力してもらうためにはどうしたら良いか？何が求められているのかを考えて行きたい。
私も、横の繋がりがないことは感じている。劇場がただ大きな公演をするだけでなく、観る側も育てていき、劇場の活動によって豊かな生活が送れるような企画ができたら良いと思った。

コーディネーター：
短い時間でたくさんの資料を見ていただいてご理解いただきながら、さらに望ましい答えを探すというのは短時間ではなかなか難しい。懇談会の積み重ねることで、全体の管理運営を考えていきたい。

<u>３　閉会</u>
事務局（進行）：
第1回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会を閉会する。

以上

第２回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会　発言要旨

内　容	第２回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会
日　時	平成 30 年 10 月 30 日（火）14：00～16：40
出 席 者	○懇談会メンバー：(五十音順) 五島朋子、坂手洋二、笹井裕子、田野智子、津村卓、 長谷川誠、平井優子、柾木和敬、宮崎刀史紀、八木景子 ○コーディネーター：草加叔也

懇　談　会　次　第

１　開会

（１）開会挨拶

（２）懇談会メンバー紹介・あいさつ

「岡山芸術創造劇場（仮称）に期待すること」

２　議事・意見交換

（１）『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画（素案）

（２）意見交換・検討

３　閉会

（１）次回の開催予定について

発　言　要　旨

１　開会

事務局（進行）:

第２回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会を開会する。

荒島市民生活局長：

検討懇談会の開会挨拶

【前回欠席者から一言】

田野：

NPO 法人ハートアートリンクは、障害のある人や高齢者、子どもなど、日常的に文化芸術になかなか接する機会のない人たちとともに活動をしている。彼らが持っている力を活かし、文化芸術の力で地域に還元していくことを目的としている。岡山にも色々な地域があるが、ひとりひとりの物語の集積で地域が成り立っているという考えの元、アート活動を展開している。

宮崎：

『ロームシアター京都』に勤務しているので、日頃からパートナーとなれる劇場を探している。岡山に、新しくパートナーとなる劇場が建つことを期待している。

また、劇場は一般的なビルの建築物とは異なり、気をつけねばならない部分が多くある。これまでの経験が新しい岡山の劇場に少しでも役立てばと思う。

２　議事・意見交換

コーディネーター：

【前回指摘事項の振り返り】

【新劇場の平面図・断面図についての説明】

【『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画（素案）目次・１章・２章の検討協議】

津村：

一つ気にかかるのは、このような資料が一般の方々も含めて目に触れていくことを前提に考えると、（計画素案）P6 の「短期的な事業計画（年間）」の「鑑賞事業」にある「舞台芸術公演」は、特に肝となる部分。もっと丁寧に書かないと、「大型作品」というのは、今のままでは誤解を生む可能性がある。

例えば、演劇やダンスであれば、未来の才能を育成していくことや小劇場系の鑑賞も含め、丁寧に書いた方がわかりやすいと思う。「大型作品」というのは、誤解を生みやすいのでわかりやすく書いた方が良い。

また、（計画素案）P4 の諸室（予定）一覧を見ると、創造事業を行っていく中で、おそらく大スタジオは 7 割～8 割が本番利用のために使われるだろう。可能ならば「ここは作品創造のために利用する場所」という諸室も示したほうが、創造事業を行っていくということが明確に出る。

また、創造劇場であるためには音響、照明の準備室と編集室は必要になる。他にも、大道具、小道具、衣裳などを製作する場があと 2、3 部屋必要になるだろう。作品を創る上で重要な場所であり、多彩なデザインが生まれていく、面白い場所になる可能性がある。

コーディネーター：

鑑賞作品は大ホール、中ホール、大スタジオのそれぞれで行われることを想定しているので、大型作品に限っているわけではない。未来の才能を育てていくことや鑑賞作品を行うことにより生まれる効果も含まれるような書き方ができればと思う。

また、劇場のミッションを達成するため、創造活動のために部屋を確保することも、利用規則とあわせて検討していく。

また、大道具、小道具、衣裳等の製作室は、地下 1 階に確保している。資材を加工する電動工具等を置くことも含め考えたいと思っている。

宮崎：

今日、図面とか見て驚いたというか、これだけの施設を作るのだなとすごく驚いたという感じです。すごいことだなと改めて思いました。

練習室の数が多いが、どのような使われ方を想定しているのか。例えば、作品づくりのために長期的に利用するのか、バンド練習のために 1 日だけ利用されるのか。床や防音など、練習室の仕様が運営に影響してくる。

また、練習室の数が多いので利用者も多くなる。練習室を利用する人たちの打ち合わせスペースやたまり場なども合わせて考えたい。特に、長期間の稽古を行う場合、居住性も重要な要素の一つとなる。今の検討でそういう視点が入っていくといい。

実際に運営を行う場合、各種機材や椅子、机などを保管する備品庫や倉庫が多く必要になるので、きちんとスペースを確保したほうが良い。また、書類や資料のアーカイブなど、利用者には見えない部分が、管理のしやすさに直結しているので、考えていただきたい。

大道具・小道具の工房の貸出については難しい問題がある。専門的な工具や機材が置かれると非常に危険な場所になるので、誰にでも貸し出すのではなく、貸出の仕方を考えなければならない。

コーディネーター：

まだ、協議をしなければならない部分が多く残っている。

稽古場、練習室は 15 室程度が想定されている。トイレや水場、給湯室、更衣室程度は用意されている。

ただし、需要と近隣練習施設との棲み分け等を考慮した上で、部屋の仕様や広さ等を検討していくことが必要と考えている。
　床の吸音などの細かな仕様は、実施設計で精査をしていく予定。

宮崎：
　練習室は、「需要があるから整備する」ということと、「新しい施設が目指すもののために整備する」という二つの要素があるので、その二つのバランスがうまくとれると良い。
　事業計画素案（P7）について質問だが、「継承事業」とは何を継承していくのか。

五島：
　以前の懇談会で、これまでに行われてきた活動などを新劇場に繋げ、活かしていくという議論がされていた。その部分が「継承」という形で残っている。

津村：
　以前、私が発言をしたことだと思う。
　地域にある公共劇場は、「地元に語り継がれてきたことや、継承されてきた伝統をどうつないでいくのか」という大きなミッションがある。開館当初は手が回らないと思うが、劇場が成熟期に入ってくる頃には、地域に語り継がれてきたことや、継承されてきた文化・伝統をどうやって劇場が受け継いで、新しいアートとコラボレーションしていくかということに取り組まないとならない。そういった研究機能ということも必要だと発言したかと思う。

コーディネーター：
　具体的に「この事業を継承しないといけない」ということまで書きこんでいるつもりはなかったが、少なくとも「市民会館等で今活動されている方の活動を繋いでいく。また、活動を継続できる仕組みを作っていく」ということがある。
　また、伝統芸能や地域に残さねばならない舞台芸術を次の世代に繋ぐということもある。ただし、具体的にどれを残すかという選別まではできていない。

五島：
　オープンロビーの使い方が気にかかる。劇場や練習室はすでに活動している人や関心のある人が目的を持って訪れるが、これからの利用者・活動者を増やし、舞台芸術によって地域に影響を与えていくということを考えると、今、関心のない人たちにも関心を持ってもらうことが必要。残念ながらこの建物は1階側の劇場に直接アクセスできないので、劇場の中で何もやっておらずともロビーでの活動があり、それが外から見え、吸引力を持つ、あるいは興味をもって入って来たくなる、敷居の低い場として機能する必要があると思う。そのための人的な確保と事業の仕掛けが重要になってくるだろう。
　オープンロビーで何かしらのアクティビティが生まれてくるとすると、倉庫も必要になるだろう。大きなところから細かいところまで、このオープンロビーというのは非常に大事な役割を果たしていく場所になるので、かなり注意深く考えていく必要がある場所ではないか。

コーディネーター：
　五島さんに発言いただいたように、ホールを使わない時にはロビー、ホワイエを使えない状態にしないで、可能な限り開いていきたいと考えている。
　また、場所だけ開いていても、そこに人が来るわけではない。そのために公衆Wi-Fiや、飲み物、軽食程度を売る売店等を用意したいと考えている。また、座って話しができ、買ったものを食べられる机と椅子を用意できれば良いが、そうなると公演のたびに片付けねばならず、手間がかかる。どこまでできるかは、具体的な管理運営と合わせて考えていかなければならない。
　劇場に来ることに日常的に慣れている方はどこからでも来るが、来ない人たちにも、劇場に足を踏み入れ

るとチラシ・ポスターが置いてあり、周辺部に映像等が流れるといった舞台芸術に親しむ環境を提供する必要がある。できればインキュベート（支援・育成）していきたい。新劇場が大きな仕掛けになることを期待したい。

平井：
私もホワイエの利用の仕方は興味がある。例えば、練習室や創造支援室で行われている活動がホワイエから見られると良いと思う。

柾木：
ホワイエの使い方を失敗したため、ホール内は良いが、使われていないというホールは結構ある。劇場の顔となる場所なので、よく検討していただきたい。
また、歌舞伎座のように外観に垂れ幕などパッと目に残るものがあり、外を歩いている時や車の窓から誰もが目に入るように工夫がされていると、関係者もチケットを売りやすい。例えば工房でそういった幕も作れるようになっており、アート性のあるものができるとインパクトがあって良いと思う。
連携事業の≪つなぐ≫について。前回の懇談会でも申し上げたが、「岡山市にもう一個ホールが増えたというだけにはしてほしくない」ということ。この劇場が岡山市内の文化施設を統合する役割を担えると理想的だと思う。
継承事業に関しても、現在、市内で企画力がある既存ホールとして、岡山シンフォニーホール、ルネスホール、天神山文化プラザがある。これら既存のホールを無視して、新しく同じような企画を始めるのは無駄だと思う。各ホールの持っているノウハウ・顧客を全く無視して新しいものを作るとマイナス要素しかない。
例えば、岡山シンフォニーホールでやっている事業の本番を新劇場でも上演する。両方のホールで公演ができればなお良いし、付帯してワークショップを行うなど、そういうことが育成事業にもつながっていく。新劇場だけで事業をすると考えず、既存で育っている技術、顧客、関わっている方々を巻き込めると、岡山市自体の文化活動が一丸となって繋がると思う。
「今、市の文化団体の壁を取り去るのはホールの事業しかない」と申し上げている。文化活動の枠を取り去るのは、新しい大きな力を持った施設しかないと思う。
また、オペラやミュージカル公演は練習期間がとても長く、1 年～2 年になる。稽古は週 1 回から 2 回なので、その期間に利用できないと練習にならない。大ホールの舞台面が取れるような練習室は絶対に備えたい。更に、練習室自体の収納が充実していると、毎回稽古の度に大道具・小道具係が走らなくて済み、使い勝手が良い。
また、演者が髪の色を染めたりすることもあるので、楽屋にシャワーを備えて欲しい。シャワーとトイレ、ピアノがある楽屋だと誰もが喜んで使える場所になるだろう。

コーディネーター：
岡山シンフォニーホール、西川アイプラザ、西大寺公民館などとどう連携していくか。連携については実施計画に書いたからできるというわけではない。各施設の活動をリサーチし、コミュニケーションをとりながらどう取り組んでいくかを考えていく必要がある。ただし、連携を図るということは、来年度の課題としても実施計画に残しておくことが必要である。

【『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画 3 章～5 章の検討協議】
長谷川：
前回の懇談会では、『表町商店街活性化推進プロジェクト推進協議会』に活動について説明した。10 月 25 日に千日前整備の基本計画について、マスコミも含め発表させていただいた。また、商店街の魅力創造プロジェクトチームのなかで、株式会社岡山京橋クルーズという会社を設立した。具体的には 70 人乗り程度のボートを購入し、瀬戸内国際芸術祭の際に、一日一往復だが、牛窓から犬島、京橋から犬島、豊島という航路を運行させることを検討している。千日前・京橋はかつてとてもにぎわった場所だった。この場所から瀬戸内の島々に行けるということは、新劇場にも大きなプラスになると考えている。

コーディネーター：
犬島から船が来るとのことなので、例えば、年に１度、歌舞伎の船乗り込みのようなものがあり、商店街を練り歩くということもできたら面白いと思う。新劇場に影響のある動きもあるので、取り込んでいける運営を考えていきたい。

田野：
長谷川さんのお話を伺い、まず大人が楽しんでいる姿を若い人に見せるというのは一つあるかなと思った。
先程から「アクセシビリティ」について考えていた。少子高齢化が進んでいく中、劇場に足を運ぶ人の中に、高齢者や視覚的・聴覚的に弱ってきたが楽しみたい、という方々が増えてくる。その方々をどう劇場が受け止めるか。この劇場を拠点にした高齢者のゴールドシアター、障がい者のプロ劇団ができても良いと思っている。そういったことをするためには、職員の研修や、ダイバーシティ、多様性についてもう少し踏み込んでも良いのではないか。
子どもが幼い頃に、岡山の商店街で遊ぶようなイベントに参加したことがある。歴史をもった商店街なので、そのように人と出会うチャンスをつくるシステムができたら良いと思う。このような取り組みを大人だけが考えるのではなく、ホワイエで高校生たちを交えて、常に検討会が開かれているなど、プラットフォームを見せるというのも一つの手段かと思う。
先程、ホワイエに軽食を売る売店程度を設置できたら良いとおっしゃっていたが、私は反対です。使われなくなったカウンターやコーヒーショップが置かれているホールがたくさんあるが、そのようにはしたくない。逆に、岡山市内・県内の商業高校などが新しいお土産やスイーツを研究しているので、そういった学校と連携し「この劇場にあったテーマ」など、協議をしながら展開していける柔軟さがあると面白いと思う。

コーディネーター：
場合によっては撤収しやすい店にするというのも考えられる。もしくは、市内の学校と共同でショップ展開するというのも考えられる。ただし、劇場というハレの場にふさわしいものをどう提供していくのかも重要だと思う。そういった仕掛けを考えていきたい。

宮崎：
全国の劇場が、劇場の中のカフェの運営に苦心しているというのは確かなので、きちんと考えねばならない。劇場内のカフェは客が来た時しか商売にならない。今回の計画にどこまで盛り込むか。指定管理者になるのならば、「市から高校生と連携しろと指示があったので仕方なくやっている」となっても良くない。指定管理者の責任で運営できるようにしたほうが良いかと思う。
運営母体は客からはあまり見えないが、運営側からしたら非常に重要である。指定管理者制度の導入を前提に検討しているとのことだが、大規模の施設なので、「公の施設を運営する」ということへの視点は大事になる。様々な条例、法令はもちろんのこと、「公の施設を運営するために、どういう規則を会社や団体が持っているか」という視点がなければならない。多額の指定管理料や税金が投入されることになるので、市民の目にも触れる。そういったことへもしっかりとした対応が求められる。
また、創造劇場として「つくる」ということを意識した日常の運営ができるかということ。極端な例を言うと、「作品を創りましょう。衣裳の布が足りない。購入するには入札が必要だ。相見積もりが必要だ。」となると創作ができない。この劇場で行われている活動をきちんと理解している組織が、しっかりと説明責任を果たせる形で日々の運営をしていかねばならない。他にも、着実に運営ができること、補助金、助成金の獲得にも明るいこと、あるいは他館の動きに精通しているとこと。そういったことを備えた、または基盤ができており、この部分を足せば大丈夫、という組織に運営してもらうことが一番望ましいだろう。
岡山市内には岡山シンフォニーホールがあるが、京都の場合は、京都コンサートホールとロームシアター京都があり、どちらのホールでも音楽公演を行っている。両方のホールに色々な話しがくる。両ホールに担当者がいるが、その担当同士での情報交換が非常に重要。京都は幸いに同じ組織が両館を運営しているので、予算の面も含め調整がしやすい。情報交換だけでなく、もっとナマの話しが出てくるので、両館の意思疎通

も考え運営母体を検討した方が良い。

コーディネーター：
　ご指摘のとおり二つの施設、あるいは西川アイプラザも含め連携については、基本構想にも書かれているが、実際に運営の中でどう連携していくかが課題。円滑な運営を、かつ管理運営基本計画にそった管理運営ができる運営母体を考えて方が良いだろう。

津村：
　運営母体について最も重要なことは、国内外の舞台芸術をきちんと理解し、それを運営できるということではないか。
　先ほど田野さんがおっしゃったように、障がい者・高齢者に対しての取り組みもある。10 年程前から「社会包摂」という曖昧な言葉が言われるようになった。「社会包摂」への取り組み自体は重要だが、これに対して専門的知識のないホール職員がなぜやらないといけないのかと思います。すべての分野に部署・専門家を有しているのは、行政だけです。ホール職員だけで取り組まなければならない場合 3 倍のスタッフが必要になる。
　もう一つ足らない部分は、施設利用担当。予定では 4 人になっているが、多数ある練習室を回していくことを考えたら専門的に練習場をコーディネートする人間が必要になる。大ホール・中ホール・大スタジオ、大練習室、これを一人ずつが担当していたらすでに 4 人が必要である。練習室の管理と鍵の取扱は誰がやるのか。施設利用担当者が 4 名では、すでに破綻している。そもそも、この規模の施設を 50 名で回すのでも足りないが、それでも一応 50 人と（計画素案に）書かれているので、どう組織づくりをするのかを考えねばならない。
　人員の雇用時期についても、2022 年秋のオープンならば、2022 年に事業担当者を追加で 8 人雇うのでは遅い。4 月に雇用し 9 月か 10 月に開館では習熟期間がまったく足りない。
　また、受付申込期間については、芸術文化の利用とそれ以外の利用で 1 か月差をつけることは素晴らしいが、18 か月というのは自主事業や自主制作を考慮すると早すぎるのではないか。また、練習目的の利用なら、3 日前まで受付けるというのもリスクが高い。
　ハードの計画が決まってきているようだが、これだけの人数のスタッフがいることはきちんとハード計画に盛り込まれているか。管理事務所が狭すぎる。交流人口が多いのでスタッフ以外の人もくるし、保管の必要な資料等も多い。事務所スペースには余裕を持っていただきたい。
　このホールが、フル稼働するとしたら、スタッフは下手をしたら 300 日間、朝から夜までいないとならない。これまでにもホールの環境が悪く体を壊したスタッフは数多くいる。スタッフの環境は、しっかりと考え、きちんとした環境と空間を考えていただきたい。

コーディネーター：
　ご指摘いただいた、（計画素案）P11 の【運営母体としての条件の整理】に関して、文化芸術への理解度というのをもっと重視した書き方にすることを検討する。また、（計画素案）P12 の施設利用担当の想定人数についてもあらためて精査を行う。
　（計画素案）P14 の中ホールの 13 か月は問題ないか。大ホールの 18 ヶ月を短くできるかということを、既存施設との比較を行いながら考えたい。また、（計画素案）P15 の練習利用の申込が 3 日前まででは遅すぎるのでせめて 1 週間前程度か。労務管理上 3 日前ではシフトの都合がつかないということだと思うので、再考したい。
　事務室については、設計プラン上は 50 名の職員が入れるようになっているが、既存ホールの事務室との比較も検討する。

宮崎：
津村さんの意見に加え、劇場には職員だけでなく、清掃、警備、設備、レセプショニストなど多くの人がいる。その人達がいる場所と、例えば、清掃の用具庫なども必要になる。
「朝 8 時から 9 時と夜 10 時から 11 時の利用も可能」とさらっと書いてあるが、ここも管理側からすると唸るところ。おそらく、対応はできると思うが、コストに直結する部分。もちろん 3 日前まで受付けをしても良いが、それならば対応できる体制を整えねばならない。「原則的には 1 ヶ月前までの受付けとし、あとは現場の判断で利用できることもある」程度にしてもらえると良い。また、朝も 8 時からの利用が連日で続くと、劇場は夜遅くまで職員がいる施設なので職員は辛くなってくる。運営側の意見としては、規則でガチガチに縛らない方が良いと思う。

坂手：
市民やマスコミに劇場の図面も公表され、情報が共有されつつあるが、今のままで良いのか。まずは、市の理念や、「どんな劇場にしたいか」「岡山市がどんな市になっていきたいか」「岡山市は文化の力でどのように変わっていきたいか」ということが反映されてなければならないのではないか。
「どんな劇場にしたいか」というイメージがあるから、先程、宮崎さんがおっしゃっていた「運営する人の工夫」が活かされる。
「座・高円寺」は、子どもたちを対象にした事業をしているので、土日は朝が早い。「金沢市民芸術村」は、市民ボランティアとともに 24 時間開館している。そういうことも含め、全てのことがつながって、まちの個性になる。劇場のなかに様々な制約や条件がある中で、決めていかねばならない。
岡山の場合は、いろんなノウハウを入れて、草加さんが、まとめて下さっているというのがある。「岡山市はどんな岡山市にしていきたいのか」「どんな劇場のある岡山市にしていきたいか」のイメージが出てこないと判断ができない。
「座・高円寺」は、開館の 3 年前に準備室を作ったが、それでもぎりぎりだった。2022 年度に開館するのならば、もう準備室を開設しないと本当に間に合わない。
東京では劇場同士のつながりがある。「この劇場でうまく行かなかった部分をこの劇場では改善しよう」「あの劇場は実験的な試みを多くしているので、この劇場では子どもに特化して行こう」などということもある。そういった判断の中で、どういう劇場にしていくのかというのは、地元の人達が自分でやらないといけない。そのためには、ここで会議をしているだけでは駄目。私がこの劇場の立ち上げに関わるとしたら、岡山市民に何百人と会う。「どういうまちにしたいのか」というビジョンからしか、どういう劇場にしていくかは見えてこない。
「岡山芸術創造劇場」という名称をつけた以上は、やはり「芸術創造」を中心に活動する。どんな公演をお客さんに見せるのか、どんな公演が上演されている劇場であるべきか、ということを考えねばならない。これは非常に難しい。時代の個性のようなものもあるし、伝統も、未来も、教育も考えていかなければならない。
芸術創造劇場における創造主体は「劇を創っている人たち」だが、誤解のないよう言うと、お客さんや、芝居を売る人や芝居の周りにいる人たちも一緒につくっている。まちの人たちも一緒につくっていると解釈している。芸術創造ということに一番適した環境をつくるためには、まち自体を変えるというくらいの気概がないと、看板倒れになる。
先日、図面等が公開された。これまで「楽屋がホール階に少ないのではないか」など様々な指摘を色々な方から言われてきた。指摘されていた事項は改善されていることも多いが、「この図面のままの建物で使いにくいホールができる」というフェイクニュースも飛んでいる。そういった誤解を解いていかないとならない。
「座・高円寺」は設計図面を、一度決定した後に変更してもらった。いま、このように図面が公開されても、「ここから一切変更がきかない」ということになると辛い。「岡山市が求めていることに対してどう答えていくか」ということをもう少し考えないとならない。
また運営母体も決定していない。指定管理をする団体にどのくらいの裁量を与えるのか。芸術監督・館長・プロデューサーの役割は、各地によって違うが、岡山の場合はどのようにルールとして示していくのか。そ

こに対する答えが、私には見えない。今、話されていることが、どこまで反映されるかもわからない。これから色々な面でかなり大胆なことをしていかねばならない。そのためには、岡山市民の理解を得る、誤解を解くということをしていかなければならない。図面を公開したからには、市民の疑問に答えていかなければならない。

岡山市は、かなり責任を持っている。「創造型劇場」を掲げた以上、創造に適した劇場にするということで、本気で取り組まなければならない。また、中身がからっぽの状態で、現状報告と経済面の話しかでてきていない。きちんと、市として見解を示すことが、市としての責任だと思う。

コーディネーター：

私自信も色々な意見を市民の皆さんから聞いている。誤解を説いていくこと、説明責任を果たしていくことは重要だと思う。また、来年度からは開館準備業務を始めるなかで、市民対話を進めていくことも必要と考えている。

【『岡山芸術創造劇場（仮称）』管理運営実施計画 6 章～】

笹井：

まずは方針やビジョン、「これは必ず目指さないといけない」というものがあり、それを達成するための具体的な案としての利用規則がなければならない。

利用規則に関しても「ここは絶対に譲れない」という部分と、「実際の運営の様子を見ながら変更していける」という部分があると良いと思う。

（計画素案）P25「その他支援」について。義務や寄附だけでなく、他の方法の寄附も考えられると良いのではないか。例えば、ライブハウスでワンドリンク 500 円のうち 50 円が自動的に寄附に充てられるというシステムをとっているところもある。その実績は 2014 年にオープンし、他の寄附とあわせてだが、既に 5,000 万円溜まっている。そのように、楽しみながら寄附をし、それが運営に繋がっていくというやり方もあるので、ご紹介させていただいた。

コーディネーター：

市民との協働について、田野さんのご意見はいかがか。

田野：

これまでの岡山市民会館などに無かったもの、経済優位ではない未来に残して良かったと子どもたちに誇れるものは、様々な年代やジャンルの人が対話を重ね、トライアンドエラーしていかない限りは生まれてこない。80～90 歳の、岡山中心市街地の歴史を語れる人がいらっしゃるうちに聞き書きなどをしながら、何年先になるかはわからないが、紡いできたものが形になっていく場になっていけば良いと思う。

また、岡山には素晴らしい高校生や中学生がいる。皆進学や就職などで岡山から出て行ってしまう。そういう若者たちが帰って来たい場所となることが期待されているのではないか。

「このホールができた直後から経済効果が生まれ表町が儲かる」というわけではないだろう。直島は何年もかけてやったのでああいう形になった。そこまでの積み重ねが重要。例えば、先程、話に出たオープンロビーで色々な人たちが対話に参加している、誰もがそこに参加できるという可能性を広げていけたら良いと思う。

コーディネーター：

お話に出たような仕掛けを作らないといけない。今、聞いていて思ったのは、既存施設とのネットワークを作っていくということだろう。おっしゃっていただいたようにホワイエやオープンロビーを開いて人を呼ぶということ、そこから手を伸ばすことで、手を握り返してくれる関係をつくっていくということをぜひやりたいと思う。

岡山で活動されている八木さんはどういう繋がりを作っていったら良いとお考えか。

八木：
ただ単に劇場ができるというのではなくて、地域開発をしていく。地域の方々は劇場ができることに期待をしていると思うが、作り手や利用者だけでなく、地域の人がどう絡んでいくかというのを提示してあげる。色んな方を巻き込む形で盛り上げていければと思う。

コーディネーター：
ハードを作ったら地域が賑わう、何もしなくても人が集まるということではない。舞台芸術に関心のある人だけでなく、そうではない方を特に巻き込んでいきたいと思うが、どういう仕掛けがあるとお考えか。

五島：
3 年程前から懇談会に関わらせていただいているが、なんとなくワクワクする感じがないと感じる。岡山という地域は、ポテンシャルをすごく持っている。そのことを活かして、今までにない、「岡山はこんなに面白いものをやるか」というものを作って欲しい。それが、計画の中から見えてこない。例えば、岡山にしかない劇団があるとか、ゴールドシアターや障がい者のダンスカンパニーなど。「岡山のここにできるから、これをしていく」ということが、もう少し出てきても良いかと思う。

地域との協働、市民との協働については、とりあえず（計画素案に）項目があるものの内容がない感じがする。これから色々なアイディアを出し、もっと詰める必要がある。

また、個人と劇場が直接出会うのはなかなか難しい。学校や福祉施設、公民館など既にある施設との連携が、まずはきっかけになるだろう。そういう意味では、行政の中に窓口や連絡調整をするような組織があると良いと思う。

コーディネーター：
ご指摘のように足りない部分があるかと思う。具体は 2019 年の開館準備の中で何をやっていくかを示すことになる。本年は、来年に繋ぐための大きなフレームを示していきたいと思っている。

津村：
（計画素案）P27 に「地域との協働の推進」とあるが、今の段階で長谷川氏がされていることはどのようなことかお伺いしたい。

長谷川：
（プロジェクトの紹介）
- シーボルト・おイネの記念館建設プロジェクト
- 鐘撞堂の再建プロジェクト
- 国産自動車第一号山羽虎夫号のレプリカ自動車の走行プロジェクト　など

津村：
とっても劇場に協力的なお話をいただいた。お話を伺い、劇場と協働していけると思い安心した。

コーディネーター：
本年度、大きな背骨を作り、来年度以降にアイディアの肉を付けて形にしていきたい。まだ管理運営組織が確定しているわけではない。ポイントとなる収支計画についても財政の確認が下りているわけではない。次回はそこまでを含め取りまとめていきたい。

以上

第３回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会　発言要旨

内　　容	第３回「岡山芸術創造劇場（仮称）」管理運営実施計画検討懇談会
日　　時	平成 31 年 2 月 1 日（金）14：00～16：25
出 席 者	○懇談会メンバー：(五十音順) 　五島朋子、坂手洋二、笹井裕子、津村卓、柾木和敬、宮崎刀史紀、八木景子 ○コーディネーター：草加叔也

懇　談　会　次　第

1　開会

（1）開会挨拶　　大森市長

（2）懇談会メンバー紹介・あいさつ

2　議事・意見交換

（1）『岡山芸術創造劇場（仮称)』管理運営実施計画（案）

（2）意見交換・検討

3　閉会

発　　言　　要　　旨

1　開会

事務局（進行）：

第 3 回「岡山芸術創造劇場（仮称）（以下、本劇場とする)」管理運営実施計画検討懇談会を開会する。

大森市長：

本劇場も設計が進み、完成のイメージが見えてきた。これからは、具体的に誰が動かしていくのか、収支計画はどうするか等について、現実的な話を整理していかねばならない。

この本劇場を中心として、この岡山の文化、芸術を育てていき、西日本の代表的な施設とならなければならないと考えている。

コーディネーター：

【岡山芸術創造劇場（仮称）管理運営実施計画（概要版）の説明】

五島：
市長の「西日本の芸術を創造する代表的な施設」を目指すというお言葉を聞いた。私は鳥取から通い参加しているが、近県のひとりとして、大変心強く思う。
開館まで残すところ 3 年となった。**開館からがスタートなのではなく、「これから岡山の芸術創造として何をするのか」ということが徐々に形になって見えてくるよう、岡山の文化政策に通ずる専門的な人材とともに、プレ事業を緻密に積み上げていく時期にきている。**
プレ事業を実施していく中で、市民の方たちに「自分たちの生活の中にこんな潤いができる」「まちづくりにこんな波及効果がある」「学校ではこんなことができる」など、ある種のモデル的なイメージを持っていただけるよう、大事な 3 年間を過ごしていただきたい。

坂手：
先日、大分県で劇作家協会の劇作家大会というイベントを行った。この大会は北九州芸術劇場が開館する 5～6 年前から始まり、その後も全国の都市で行われてきたが、大会を通して、それぞれのまちの個性や特性を感じる。
市民が自発的に主体となるために必要なものは相互性。自分たちのことだけを考えるのではなく、街や様々な世代のこと、色んな分野の人達を含めた文化のあり方を考えねばならないということを、今回の大会を通して痛感した。
現在、提案されている実施計画は、国内の創造型劇場の成功例を模している部分が多い。それも一つの道だが、今、様々なことが曖昧になっている中で、この計画を確実に固めていくという具体的な作業が必要になる。それを達成するためには、**機動力のある運営組織を作ることが肝要だと強く思っている。**
「魅せる」、「集う」、「つくる」の 3 つの柱がバラバラではなく、きちんと繋がっていなければ岡山型の劇場はできない。そのための組織体制には、どのような人材が必要なのかを具体的に詰めていく時期がくる。その組織の根拠となるのは、岡山市の文化政策であり、岡山市が何をやりたいかということ。「市民の参加」という言葉ではなく「市民のもの」にしなければならない。利用者や観客、これから創造に参加する予備軍の人たちも含め、「皆のもの」であるというビジョンをどうつくるか。芸術がある暮らしを岡山がこれから推進していくというビジョンになると良い。
本劇場で「具体的にどのようなことをやりたいか」ということにより、指定管理者のあり方などがすべて変わってくる。本劇場の組織が岡山の中で完結するのではなく、日本中に向けた個性を持つというビジョンを持っていただけると、創造性が保証されると思う。
芸術文化がもっと市民に近い形であって欲しい。自分たちの暮らしの中に文化というものが自然に存在し、楽しめる。そんな新しいビジョンを岡山で叶えていただきたい。

笹井：
国内のライブ・エンタテインメント市場は非常に好調で、この 20 年程で約 2 倍に伸びている。それほど大規模ではないが、ライブやコンサート、演劇、ミュージカルに参加する人や支払う金額が増えている。
しかし、この全体の伸びは首都圏に集中しており、岡山市内、県内で供給されないため、他の都道府県で参加している。
岡山に本劇場ができるという話を岡山出身の方や、地元（岡山）にいる両親や親戚に話しても、「劇場ができるの？」「ニュースで見たことがあるけど、どこにできるの？」という反応が返ってくる。素晴らしい劇場ができるということが伝わっていくと良い。
劇場を利用するのは、岡山の人たちだけではない。この劇場の魅力に皆に共感してもらい、一緒に新しいものを創造する流れができると良い。

津村：
この 10 年ほどで全国に様々な劇場ができた。芸術文化が果たす役割が明確になってきた時代だといえる。社会が変化を欲してくる中で、**今後 10～15 年くらいの間で社会の変化にどう対応していくか、特に子ども**

たちが、次の社会に対してどう対応していくのかというのは、重要な問題と思う。そのような状況の中、本劇場が生まれるというのは、岡山市にとっては良かったのではないか。大きな予算はかかるが、行政が市民に対して、もっと言うとこの国に対して、投資するということだと思う。

ただし、その投資は回収しないとならない。「回収」とは何をさすのかということも、投資と同時に成果とは何かということも考えねばならない。そういう意味で、運営組織は柔軟な体制とやり方をしていかねばならない。

そのため、**運営組織はこれまでにあった劇場運営の概念を超える形で、新しいものを考えていかなければならない。行政の古い体質を引きずっていては新しい施設にはならない。「岡山市は劇場もすごいが、運営体制もすごい」と全国から思われる体制をつくることは、ある意味で後発の創造型劇場としての責務でもある**と思う。

そういったことも考えながら、岡山市が本劇場に何を期待し、何をミッションにし、何を目的にするのか、決めて進んでいければと思う。

柾木：

この劇場を最もよく利用する市民は、岡山市、あるいは岡山市周辺の文化団体だと思う。

現在、岡山の文化団体には、ほぼ横のつながりがない。**本劇場が、岡山で行われているホールの企画をつなぐ場所としての役割を担う。まずは、そこをひとつの軸として考えていただけると、文化の発展へとつながる即戦力になる**と思う。

現在、市内の企画力のあるホール施設では、本劇場ができるということを見越して、将来的に本劇場へと繋げることを考えた企画が出始めている。その反面、音楽業界の人間でも、この劇場ができることすら知らない、もしくは媒体で見たことがあってもまだ興味が持てないという方々もいる。

プレイヤーは、自分たちが当事者になって関わらないとビジョンが見えない。企画自体が行われれば自然に目が向いてくるので、本劇場で行われる企画に期待している。

宮崎：

2018 年 12 月に行われたシンポジウムにおいて、「劇場ができるとワクワクする 10 のこと」というテーマで基調講演をさせていただいた。

劇場とは、どんなところかを考えてみると、以前は公演をする人と観客がいるという印象が強かったかもしれない。しかし、今はそれだけではなく、**体を使った表現をすること、空間を使うこと、あるいは人が集まることが行われる場所、そしてそういうものに関わる技術、経験、知識を持った人間がいる場所、舞台芸術、身体芸術を使った、地域の総合的なサービス機関という言い方もする**ことがある。

「ワクワクする」というのは、寄り道したくなるところや、固まっていない余白があるということ。そういった様々な仕掛けがあることが、創造性やクリエティビティーの源だったりする。単に、新しい施設ができるだけでなく、「人的体制が伴った施設」というのを確実に担保することで、この施設がより効果を発揮していくだろう、本劇場もそういった劇場になるだろう、とお話をさせていただいた。

本劇場に必要なスタッフの職能は、演劇や音楽などの専門性だけではなく、子育て、福祉、医療などの方々と共に事業を展開できる能力も必要となる。そういう人を集め、劇場でどういったことができるのかを考えるのが、これからの 3 年間になっていくのではないか。

この劇場に投資したお金をどう回収するかしっかり考えて取り組んでいくことで、より確実で効率的・効果的、継続的な活動につながっていく。それができる人材を配置して欲しい。

八木：

長年東京で役者をし、岡山に戻ってきた。その際に、岡山は文化団体が個々に活動していて、横のつながりが少ないということを感じ、それを繋げていきたいと考え、様々な企画や舞台公演を行ってきた。横のつながりがないのは、お互いの活動内容を知らない、宣伝が行き届いていないということがある。そこを協力していけば、もっと質の高いものができる。人と人が繋がっていくことが大事だと考え、活動を行っている。

私は、生まれ育ったのも岡山で、まさに千日前のあたりが学区内だった。今は子どもが減り、寂しい地域になっていたところに本劇場建設の話があり、商店街の皆さまも、それに関わる方々も、期待を寄せている。私自身も、作り手として、少しでもこの劇場の役に立つ企画を打ち出していきたいと考えている。

「遠いところで何かしている」という感覚ではなく、自らが参加している感覚があるものになっていくと、皆さんの劇場になっていくと思う。

大森市長：

岡山市では3年に1回、「岡山芸術交流」という現代アートの祭典を行っており、今年が2度目の開催となる。当初、中々なじみのない現代アートが市民にどう受け入れられるかと思ったが、受け入れるだけでなく一緒に行っていくイメージがあると、次の発展があると考えた。本日も、各委員からそういった根本的な部分についてお話を頂いたと思う。

「行政の古い概念を持っていたら駄目」とのご指摘があったが、「行政の古い概念」とは何か考えると、「行政は全てにおいて平等でなければならない」「ある程度弱者を中心として考えねばならない」という性格がある。だが、それだけで考えていくと企画そのものが陳腐になってくる可能性がある。行政全体としてはそういう要素も必要だが、**「芸術文化を提供するまち」においては、行政的な性格が前に出すぎると陳腐なものになってしまうというのは理解している。**

本劇場も同じではないかと思う。誰を中心としていくかは今後の検討となるが、その方にソフトの部分もお願いしていくのが良いかと考えている。

やっと、我々が今まで見てきたものが具体的になってくる時期にきた。今後は、各委員にいただいたようなお話を受け止めながら、**具体的なものをより発信していく体制を作らねばならない**と痛感した。今後とも、ご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げる。

【市長退席】

２　議事・意見交換

コーディネーター：

【管理運営実施計画（案）について変更等を説明】

津村：

これまでいくつかの劇場の運営に責任者として携わってきた。約15年前に指定管理者制度が導入されたが、その際には「劇場の運営のために新たな外郭団体をつくる」「寄付行為も含めこれまでのルールを変える」ということが非常にネガティブに捉えられていた。実際に、古いルールのまま新しい劇場の運営がされることになったので、オープン時から全くあてはまらず、劇場が動かなくなる時期もあった。

今は、そこから更に15年が経っている。その時よりもっと新しい概念や方法論が出てきている。特にスタッフの雇用や契約の問題や働き方改革ということが言われるようになってきた。

本劇場では、かなりの人数が働くことになる。「新しい作品を創る」ということが求められており、それを踏まえて、新たな組織を作らねばならない。運営形態も含めて、岡山の劇場が全国のモデルとなるようなことを考えていくのは重要なことである。**岡山市がリーダーシップをとって組織づくりを考えるくらいの気概がないと、案に書かれているような、プラットフォームとなり全体を見ていくことは絶対にできない**だろう。ぜひ研究して、新しい考え方・やり方も取り入れていただきたい。

先ほど市長がおっしゃったように、行政が平等なのは当然である。芸術も入口は平等である。ただし、結果は平等ではない。そこを考えた上で、どういう運営ができるかということを考えて欲しい。

コーディネーター：

指定管理者制度が導入されたのは2003年である。導入から16、17年が経ち、指定管理者制度の考え方

も進化し、大きく変わりつつある。指定管理者の選定については、公募か非公募のどちらかしかないと言われてきたが、今はそれ以外の方法で決定する事例も出てきている。そういった変化も踏まえ、今後の組織のあり方、運営の仕方を考えなければならない。
プラットフォームを統一して、文化政策を一元化していくということに関してはいかがか。

津村：
その提案は賛成する。地方の一番大きな問題点は、劇場が地方の中でのトップになってしまい、それ以上のものがなくなってしまう可能性があること。それ以上のものがないとなると、それ以上を目指す人は、東京へと出て行ってしまう。
「アーツカウンシル」という言葉が適切かどうかは分からないが、この地域をどうしていくのかを少し離れた立場から全体を見て、提言や研究をする場所が必要だと思う。

コーディネーター：
プラットフォームという言い方をしたが、指定管理者となるための組織ではなく、きちんと市の文化政策を実現するための組織にするという意味。岡山に暮らす人々が地域への愛着を持ちながらいきいきと暮らせる豊かな都市文化を目指し、市内のホールや活動をつなげ、連携した事業を展開できるような組織にしていきたいというイメージで書かせていただいた。

宮崎：
京都もいくつかの文化施設を同じ財団が運営している。同じ財団が運営することによる**実務的なメリットは、例えば企業に寄付をお願いする中での調整や、自主事業の日程調整など、細かな調整がきくこと。また、利用者にとっても、「この日は空いてないが、こっちのホールは空いているようです」という助言もできる。**
また、**同じ組織内の異動になると、他の施設のことや地域のこと、これまでの蓄積などを色んな形で色んな人が知っているという中で運営ができる。**そういったことを一体的にすることで効率も良くなる。また、岡山市の規模の都市であれば、そうしていくしか方法はないように思う。

佐藤課長：
【パブリックコメント結果説明】

五島：
先程「働き方改革」という言葉が出たが、芸術業界は、入ってくる女性は多いが、辞めていく人も多い。最近では、結婚後も働くことを目指したネットワークなどもできている。**これからの時代を見越した運営体制を目指すためには、障害のある人や女性の働きやすさということについても配慮が必要になる。**

コーディネーター：
今は、人材が固定化せずに、全国的に流動化する傾向が強いように感じる。「北九州芸術劇場」や「ロームシアター京都」の職員も、多くは全国から働きたいという意志を持って集っている方が多いと思う。本劇場においても有能な職能はそのように調達することになるかと思う。
とはいえ、宮崎委員が指摘されたように、50 人すべてを県外から集めるのではなく、地域とのネットワークを持つ人材もいなければならない。
昔に比べると、労働時間の管理や労務管理について厳しく求められる時代になっている。芸術に関わる仕事は、これまでは労働時間が長くなっても「好きだからやっている」と許容されてきた部分があった。今はそうではなく労働基準法に則った社会性のある組織であることが求められている。

津村：
やはり働き方改革の中で、22 時までに退館することが前よりも強く言われるようになった。もちろん、

22 時の区切りはあるが、創造型劇場となっている以上は、どこかでそれを超える労働を受け入れざるを得ない状況が発生する。
　それを受け入れるためには、スタッフの人数をきちんと確保しないと受け入れられなくなる。また、企画によっては、その企画の一部を外部組織に業務委託を出すことで人員を増やすことも想定される。そのように柔軟に考えられる組織でなければ、運営できないと思う。
　また、「北九州芸術劇場」のスタッフはほとんどが女性。これから先、直営館以外は、ほとんど女性スタッフになると思う（直営館は未だに行政の男社会になるので男性のほうが多い)。「北九州芸術劇場」の場合は、ずっと希望しているが 10 年以上なかなかできていないのが託児所の設置。**岡山も複合施設なので、ビル全体の託児所を設置することを今後の課題として欲しい。**

坂手：
　人間の能力・体力には、ある程度限界があるし、長年行っているからこそ合理化してくることもある。長くやらないための知恵はたくさんある。そのために大きいのはきちんと準備をするということ。いかなる場合でも人間の能力はただ長くやっているだけでは伸びないし、かえって危険。そのことについては、きちんと考え、働く時間を配分していかねばならない。
　直営にはないメリットがあるから指定管理者制度を導入するはずで、そこが見えてこなければならない。組織と、岡山型を目指すということがどうつながってくるか。大きな組織であることのメリットを引き出すためのビジョンが必要である。
　新たな組織は、本当に有用な人材を配置すること、またトータルディレクションができる人物を配置することが必須となる。
　その組織にどのような人材が必要かは、何がやりたいかによって変わってくる。岡山市が何を求めているのかというと、岡山に暮らす人々が地域への愛着を持ちながらいきいきと暮らせる豊かな都市文化を目指すということ。それにどう取り組んでいくかが、「岡山らしさ」につながっていく。
　例えば、城下町を中心とした岡山なのか、瀬戸内海や犬島も含めた岡山市全体なのか。それが新しい劇場でどう展開されていくのか、具体的な想像力を持たねばならない。そうすることで、岡山らしさが出せるはずだと思う。
　本劇場の組織は大きなものになる。岡山シンフォニーホールや他の財団部署とは独立した「芸術創造劇場」の確固たるアイデンティティーを確保できるような棲み分けをしつつ、かつ市民のための施設として公民館的な役割も果たさねばならないとなると、適正な人材を揃えるのは非常に難しい。また、その人材をまとめる人が重要になる。
　また、**すでに知られている岡山ではなく、岡山発信で、岡山の人たちで新しいものを創ることで、岡山の新しい魅力を出せる**と思う。

コーディネーター：
　「何をやるか」ということにフィットした組織づくりをしていくことを前提に、指定管理者制度を導入するという方針を決めている。
　概要版に「運営母体としての条件の整理」として 8 項目が挙げられているが、この 8 項目を満たす運営母体をどう決めていくか、これからの大きな課題になる。
　もう一点、今後更に精査が必要な項目ではあるが、収支計画についてご意見を伺いたい。

宮崎：
　まだ、建物の実施計画も完了していないため、経費を詳細に積み上げるのが難しい時期だろう。この項目の中では、事業への補助や指定管理料、人件費は、施設の稼働状況とは別に考えることができるが、施設管理費は実際に稼働してみないとわからないので、変動幅が出てくる。今後、試算が細かくなっていく中で、どこを優先して守るかのコンセンサスを作っていく必要があるだろう。
　京都市の場合は、自主事業で施設を使った場合にも、事業費から施設利用料を払う仕組みになっている。

そうなると、事業費から施設利用料を支払うことになるので、結果として事業費が減る。実際には、事業費の中に何の項目が含まれるのか。例えば、広報予算は事業費に含まれるのか、施設広報の一貫として施設管理費に含まれるのか。そういったことも具体的に検討していく必要がある。
また、6,000 万円の助成金、協賛金を集めるのは大変。これを目指すためには、補助金や協賛金の仕組みをどう作るか考えねばならない。劇場の予算としては、潤沢に予算がある施設ではないだろう。しっかり節減する項目を考えていかなければならない。

コーディネーター：
ご指摘のように実施設計も完了していないので、水道光熱費等の詳細はわからない。あくまで先進事例を参考にして積み上げげた想定収支としてお示ししている。
先程、京都市の事例をお話いただいたが、岡山市が施設利用料を支払うのか等は、現段階では未定。設置条例がどうなるか、指定管理者が負担する項目が何になるかにより、事業費や全体の構成も変わってくる可能性がある。

津村：
「北九州芸術劇場」では、指定管理者が行う自主事業に関しては、一切利用料を支払わない。ただし、スタッフにどのくらい経費がかかるかを意識させるため、貸館と同じように数字は出している。
指定管理者も利用料金を支払うことにすると、例えば大ホールが 1 日空いたので、空いているなら稽古がしたい、という時に使えなくなる。また、2 週間ホールの利用料金を支払うことで事業費がなくなるという恐れもある。それぞれにメリット・デメリットがある。
また、本施設の規模を自治体からの支出 5 億円で運営するというのは、優秀だと思う。
補助金については、1 年目から出るか分からない。1 年目から獲得するためには、どれだけプレ事業をきちんと計画的に行っていくかということ。劇場は成熟するための期間が必要なので、オープンから 3～4 年間かけてしっかりと成熟しながら事業を展開していくと、今の考え方なら年間 6000 万円の補助金は獲得できるだろう。

コーディネーター：
個々の科目については、設計や事業の構築が進むにつれて、精査を進めていく。

坂手：
やはり「岡山芸術創造劇場（仮称）」という名前を言葉だけにしないということを、もう少し考えたい。オープニングで素晴らしい花火を打ち上げても、オープニングの成果によって劇場を維持していく方針が見えるというのは、よほどのことがないと難しい。
催しが無いときも常に活性化している施設にしなければならないので、その準備は非常に重要。しかし、芸術創造的な準備をするという話がほぼ出てきておらず、組織の話などが中心となっている。
「座・高円寺」の場合、「高円寺の人の流れを変える」という目標を持って、商店街の方々や阿波おどりをやっている方々、杉並公会堂などと協同しながら準備をしていき、開館から 7 年後には区の評価委員から「まちの流れが変わった」と評価を得ている。
そのためには、オープニングからではなく、小中学校へのアプローチを 10 年近く行うなどして、劇場とまちの関係性をつくっていくことが必要だった。
「座・高円寺」は、3 つの劇場があるが、3 つ目の阿波おどりホールは阿波踊りの団体がほとんど専用で利用している。1 階にある高円寺 1 と地下三階の 3 つの稽古場、作業場は指定管理者の NPO が自由に使える、つまり一般貸出をしなくてよいルールになっている。地下二階にある高円寺 2 は一般貸出を行っている。
一般貸出をしない区の劇場ということをどうやって担保するかというと、やはり活動内容を区民に還元できていること。クリエイティブかつ杉並区の人が納得できる成果を上げねばならない。このビジョンを皆に共有してもらう、認めてもらうということには、規模の大きくない「座・高円寺」でも数年間かかった。

本劇場も、ソフトも含め芸術創造を担保する、発信型の組織づくりが始まっていなければならない。今日も「横のつながり」というキーワードが出ているが、**岡山市内の学校や演劇をされている方、文化的発信をされている方、商店街の方、あらゆる方々とコミュニケーションをとって、横のつながりを増やしていかねばならない。**

市の中で組織を早く作り、パブリックコメントだけでなく相互の意見交換ができる場所を作っていかないと、今のままでは、「行政が勝手にやっている」と言われてしまう。すでに岡山で行われている活動とこの劇場の関係性を、誰かが主体となって作っていかないと、今後の劇場の活動が懸念される。

コーディネーター：

参考のため、本編の 28 ページ以降に他の劇場の事例を掲載している。また、31 ページには 2018 年度に行ったプレ事業を掲載している。市も本劇場の開館に向けて、少しずつではあるが市内の活動団体と協力しながら事業をはじめつつある。

全体を通して、今こういう状況にあるから、こういうことも考えて欲しいということがあれば、ぜひお伺いしたい。

八木：

先ほどから話されているが、横のつながりが必要。リサーチ力が大切だと思う。**こちらが決めて提示するよりも、皆さんがどういう活動をしているかを把握している方が組織の中にいて欲しい。そうでないと、決めたことを勝手にやっているだけという感覚が出てしまう。**

意見交換をするにも、イベント的に行うのではなく、日頃から話し合いの場が定期的にあった方が良い。

市民からのヒアリングについても、色んな団体の方に直接声をかけ、一部の方々の意見が偏らないよう、しっかりと人を集めた上で行っていただきたい。

柾木：

人材を集めることが重要。岡山の事情を把握しており、リサーチができて、既存の文化団体や企画力のあるホールのやっている事業や人間関係を把握し、地方における関係性という事情も理解した上で、意見を言える人が必要。と、このように一言で言うと簡単だが、これほどの特別な人材はいない。だからこそ皆困っている。そういった人材を、岡山出身者の中で育てていくのか、外から来ていただいた方に新しい目で見てもらうのかは、賭けのようなもの。

また、岡山シンフォニーホールと本劇場のプラットフォームを同じにするというのは、事業企画をひとつの組織で行い、それを本劇場と岡山シンフォニーホールに振り分けていくという意味か？

コーディネーター：

事業企画を一か所で行い、それを振り分けるという想定はしていない。

「岡山シンフォニーホール」は、音楽に特化した施設であり、本劇場は舞台芸術に特化した施設。ただし、先ほど京都の事例としてご紹介いただいたように、空いている諸室を利用調整し、こちらの施設のほうが向いている、などと助言をすることは考えられる。あくまでも音楽の殿堂としての「岡山シンフォニーホール」と、舞台芸術の殿堂としての本劇場はプライドを持って分けている。

柾木：

そうなると、よほど視野の広い人がいないと、最初はうまくいかない。文化人というのは縄張り意識が強いものだと思う。僕が今まで見てきた人たちは非常にその傾向が強い。自分たちがやっていることが一番だと思っているのも当たり前。だからこそ、良いものを作ろうという気持ちが生まれる。まったく別のディレクターが二つに分かれると、おそらくかなり大変であろうことは想像できる。深く考えていただきたい。

コーディネーター：

「岡山シンフォニーホール」がどうなるかということについて申し上げているのではなく、本劇場には劇場のプログラムをマネジメントするディレクターがいるということ。

うまくいけば、行ったり来たりできる関係になれば更に良い。また、人事交流は行われていくだろう。専門性が違うという指摘もあると思うが、プロフェッショナルとして、プロフェッショナルの居場所を作っていく必要があると考えている。

笹井委員にお伺いしたい。エンタテインメント業況は微増微減しながら、ある程度のボリュームが全国的には流通している。岡山に来ないのは会場がないからなのか、人が来ないからなのか。少しでも全国的な消費が起こるようにアイディアがあればお聞かせいただきたい。

笹井：

岡山に限らずライブ・エンタテインメントは首都圏に集中している。

ポップスコンサートの場合は、まず東京でツアーの日程を決め、それをもとに全国のツアーを組んでいく。全国ツアーは日程ありきで決まるので、その期間に会場がなければ他の都市へと行ってしまう。そういったツアーの組まれ方が地方の公演に影響を与えているところが大きい。ただし、岡山に適切な会場が足りないということも影響しているかもしれない。

ただし、<u>使い勝手がいい、移動がしやすい、搬入しやすい等の使いやすさが備わっていなければ、日程があっても来ることはない。</u>本劇場ができることによりそこが担保されている状況になるというのは、プラスに働くのではないか。

観客がいないのかと言うと、それは違うと思う。好きな人は海外からも来るし、東京から地方へ追いかけて行く方も大勢いる。また、岡山のチケットぴあの販売状況を見ると、東京・大阪の公演に行っている。

「観にいきたい人はいる」という状況の中でソフトが供給されるかどうかは、抽象的な言い方になるが、色んな方々の努力が必要となる。また、<u>プロデューサー等の人脈等にも影響されるだろう。</u>

コーディネーター：

芸術文化だけでなく、エンタテインメントビジネスも受け入れられる器になりたいと考えている。そういうところに向けたアプローチも必要になるだろう。

五島：

<u>プレイベントはどんどん行っていただきたい。「市民の参加や協働」という中では、実際に自分がやるだけではなく、ボランティア的な人達を育てていく機会がプレの段階から始まるべきだ</u>と思う。「ボランティア」という言葉が今回は見当たらなかったが、やはり市民の参加や協力を組み込む必要があるだろう。

パブリックコメントの中に、車いすへの対応や、高齢者への対応ということで、設備面の話が出ている。もちろんハードで解決できることもあるが、マンパワーや人的ネットワークで解決できることも多い。新しくできる劇場に関わる人を増やすという意味でも、プレ事業の中にボランティア養成などを入れ込んでいく必要があると思う。

特に、オリンピック・パラリンピックを控え、障がい者の芸術活動も活発に行われるようになっている。そういった方たちも新たな使い手として生まれてくるので、きめ細やかな対応ができるような事業と体制づくりが必要かと思う。

津村：

先程、柾木委員が、「これほどの特別な人材はいない」とおっしゃっていたが、実際にそこまで出来る人材はどの地域に行ってもいない。ここで重要なのは、<u>外から入ってくる人間をどう使うか。地域のことが全部分かる人にはしがらみがある。だからこそ、そういった地元の方と、しがらみを無視できる人間とが、どうコンビを組んで進めていけるかということが重要。</u>そういう形をどう作っていくかを、ぜひ考えていただきたい。

外部から入ってくるプロと、地元でこの先 5 年、10 年かけて育てていく人がどれくらいの割合でいるか

ということを、想定しながら進めていかなければならない。外部からのプロは、少なくとも10年以内には必要ない状態にしなければならないと思う。

地元で育った人が次のプロデューサーを務めるという形態ができていないと、外部の人が突然辞めたら、その劇場は終わってしまう。実際にそうなった劇場も、全国の中にはある。

ボランティアについては1度きちんと話し合わねばならない。単純に「ボランティア」と言うだけでは、後にネガティブな結果が生まれてくる。どういう人たちにどういう関わりをして欲しいかを、まずは劇場側がメッセージを送らないといけない。

笹井委員は、先程音楽について話されていたが、演劇やオペラはどんどん舞台美術の可動が出てきて、大型化している。例えば、エンタテインメント系のとある劇団は、普通の劇場では仕込めない舞台美術を使っている。それを受けられるだけの劇場の技術力と制作力がないと、特に演劇、ミュージカル、オペラのエンタテインメントを受け入れるのは難しいと思う。

コーディネーター：

ボランティアが市民との協働の一つのツールとして、大変重要だということは把握しているので、今後そういったアプローチもしていきたい。

坂手：

まだできていない劇場の話をしているので非常に難しい。ただ、色々なことを両輪で考えていくことが必要。私は劇作家大会を各地で行ってきたが、「ボランティア」という言葉をほぼ使ったことがない。つまりボランティアではなく「一緒にやる」ということ。そのやり方が両輪の片方になる。そして、市民が「面白いね」「ボランティアっていいね」と思えるようになると、ボランティアについての意識革命が行われる。これで両輪となる。

最近、物づくりはとにかく楽しくないといけないと思っている。岡山に新しい劇場ができて楽しい、自分たちの創りたいものを作れるという喜びがあると、その中で岡山というまちが活性化していく。「岡山というまちをアピールするためにこんな要素が必要」ということを枷に感じるのではなく、面白がると良い。

私は岡山出身なので知っているが、実は岡山出身の作家で知られていないひとはたくさんいる。まだ、色んなことが埋もれている。そういった、岡山の面白い人たちを掘り起こして、色んなものが創れる。「これって何かできるのではないの」とか、夢のような楽しい話をいっぱいできるような組織を作って欲しいと、心から思っている。

コーディネーター：

まだ、我々が知らない種（シード）がたくさんある。今後もご助言をいただきながら、耕していきたい。

今年度はこれで3回の懇談会を終わらせていただく。今後、管理運営実施計画をまとめ、今年度の成果とさせていたく。ぜひ、今度もご指導いただきたい。ありがとうございました。

３　閉会

荒島市民生活局長：

長時間に渡り、ご検討ありがとうございました。開館までのことを考えると、2019年度はご議論いただいたような運営母体をどういう形で整理していくのか、専門的な人材をどう確保するのか、運営にあたってのルール、市民の方の合意等を行っていく年になる。これからも引き続き、皆様方にご相談させていただきたい。引き続きご指導をお願い申し上げる。

以上

資　料　編

2.　管理運営実施計画策定にあたっての取り組み

（4）シンポジウム実施報告

『魅せる』『集う』『つくる』の実現に向けて

『岡山芸術創造劇場（仮称)』管理運営実施計画策定に関するシンポジウム

実施報告

1. 実施概要

（1）趣　旨

岡山市は、2022 度の開館に向け、『岡山芸術創造劇場（仮称)』の整備を進めており、今年度は「管理運営実施計画」を策定します。

岡山芸術創造劇場（仮称）がその目指すところを実現するために、どのような事業や活動を展開していくか、また、施設をどのように運営していくかについて、「検討懇談会」での検討を行いながら管理運営実施計画（案）としてまとめました。その内容について市民に周知するとともに、今後実施するパブリックコメントにより意見を広く求めていくための機会とします。

（2）日　時　　平成 30（2018）年 12 月 16 日（日）　13：30～15：30

（3）会　場　　西川アイプラザ 5 階　ホール

（4）来場者　　約 50 名

（5）次　第

ア　基調講演　「劇場ができるとワクワクする 10 のこと」

宮崎　刀史紀

［公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 ロームシアター京都 管理課長/
『岡山芸術創造劇場（仮称)』管理運営実施計画検討懇談会メンバー］

イ　パネルディスカッション

パネリスト

宮崎 刀史紀

大森 誠一

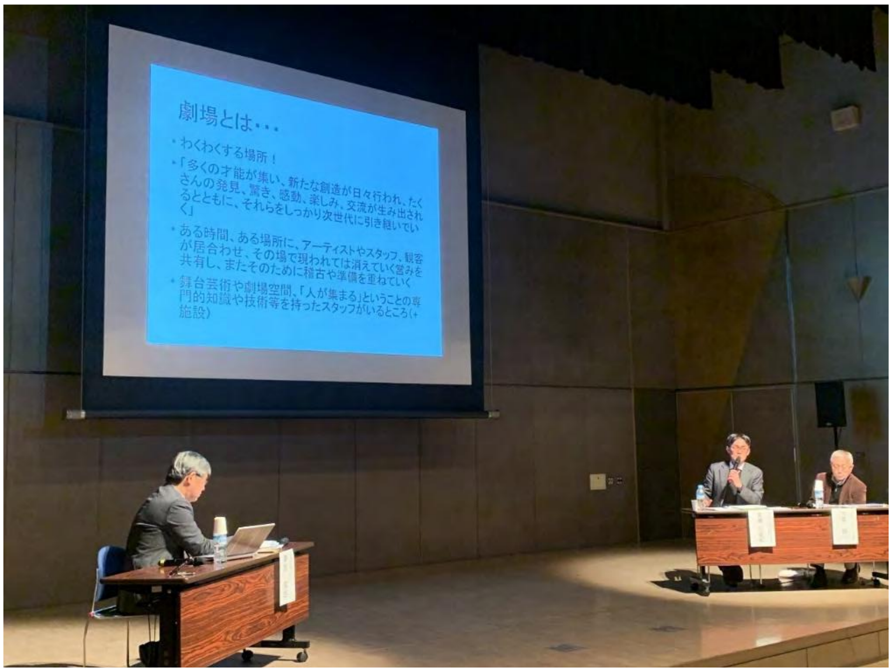
［NPO 法人アートファーム理事長・プロデューサー/
『岡山芸術創造劇場（仮称)』基本計画検討懇談会メンバー］

進行・モデレーター　草加 叔也　㈲空間創造研究所）

2. 基調講演

宮崎　刀史紀氏「劇場ができるとワクワクする 10 のこと」

- 劇場とは・・・わくわくする場所！
- 「多くの才能が集い、新たな創造が日々行われ、たくさんの発見、驚き、感動、楽しみ、交流が生み出されるとともに、それらをしっかり次世代に引き継いでいく」
- ある時間、ある場所に、アーティストやスタッフ、観客が居合わせ、その場で現われては消えていく営みを共有し、またそのために稽古や準備を重ねていく
- 舞台芸術や劇場空間、「人が集まる」ということの専門的知識や技術等を持ったスタッフがいるところ（＋施設）



【劇場ができるとワクワクする 10 のこと】

1　新しい劇場で観られる公演にワクワク
　様々な公演の上演　など

2　「創造型」にワクワク
　劇場が主催となった作品創造や、舞台での鑑賞だけでない様々なプロジェクトの実施　など

3　「劇場に行く楽しみ」にワクワク
　書店や喫茶店、イベントの開催　など

4　様々な人が安心して過ごせる場所にワクワク
　安心、安全、快適な空間。バリアフリー、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティへの配慮　など

5　劇場に「関わる」楽しさにワクワク
　劇場が行う事業や企画への参加、賛助会員としての参加　など

6　「劇場の外」での取組みにワクワク
　屋外や商店街など、劇場の外の空間での事業やまちとの関わり　など

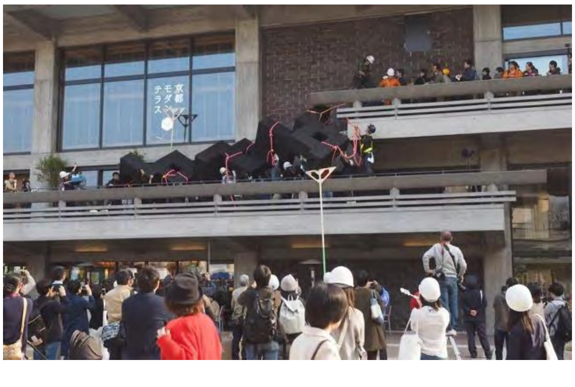
7　地域や文化の新たな「ハブ」にワクワク（HUB/拠点）
　劇場の活動を通して市内や全国の劇場や地域の文化団体、教育機関、アーティストなどと、つながりや関係をつくっていく　など

8　とにかく「建物」「設備」そして「雰囲気」にワクワク
　建築としての魅力や、劇場という雰囲気への魅力　など

9　いろんな人がいる、寄り道、余白の場所にワクワク
　書籍の閲覧ができる場所や子どもが遊べる場　など

10　「面白がる場」が増えることにワクワク。自分次第で新たなワクワクが。
　自分次第で様々な楽しみが見つけられる場所が「劇場」だということ

（宮崎氏スライドより）



3. パネルディスカッション

【岡山芸術創造劇場（仮称）について】

- 創造劇場が完成すると、商店街を挟む位置にシンフォニーホールと創造劇場ができる。商店街を挟んで劇場が存在するというのは全国的にも他にない。この立地を活かさないとならない。千日前に劇場ができることには賛否両論があった。しかし、劇場はまちを再生していく、元気にしていくという役割や可能性がある。同時に、文化芸術は社会課題がある地域に生まれることで力を発揮する。こんなにわくわくすることはないだろう。（大森）
- ロームシアター京都がある岡崎地区は、以前は人があまりおらず、目的のない人がなんとなく来るような地区ではなかった。今は施設の中に蔦屋書店やスターバックスがあったり、何もないときにもいられる場所になっている。ロームシアター京都も改修後の運営はまだ始まったばかりだが、魅力的な佇まいにいっきになったという印象がある。（草加）
- 千日前地区は駅から距離にして 2 キロほどある場所。今現在、一番わくわくしているのは商店街の方々だと思うが、まだそれが表に出てきていない。それが出てくるといいと思う。（草加）
- 事業計画は、図だけをみると「一般利用」の期間が多いように見えるが、実際にはこれだけの事業をするのは大変。具体的に、「誰が、いつ、どうやって進めていくか」を考え、実施の必要性を検討していく必要がある。ここに書かれている程度のボリュームの事業をやっていかねば、劇場としては中途半端な活動になってしまうとも感じる。目標をきちんと定め、具体的に落とし込んでいく必要がある。（宮崎）
- 創造事業を行っていくのは本当に大変で、0 から自分の劇場だけで作品を創るということは中々むずかしい。ロームシアター京都でも他の劇場と協力しながら行ったりしている。また、創造事業にからめて、興味のある人が参加できたり、参加できなくても見学ができたりなどするとよい。（宮崎）
- 最初からこの事業計画をすべてこなしていくのはとても大変。段々とやっていけるよう、段階的な計画を検討したほうがよい。（宮崎）
- この事業計画を見たときの率直な感想は「岡山市は本気で取り組む気なんだな」ということだった。以前はサンポート高松に勤務して

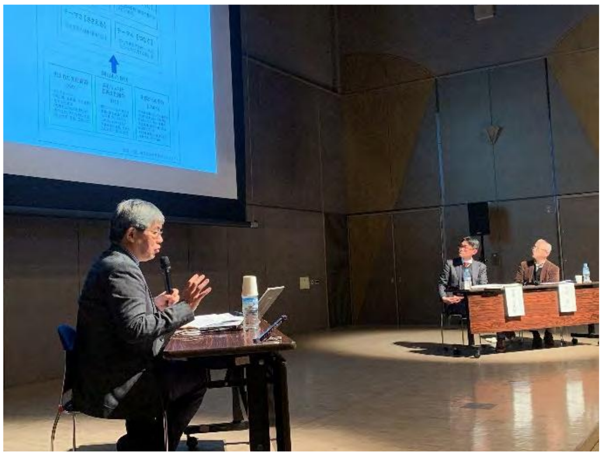
いたが創造事業はやっておらず、鑑賞事業や人材育成事業、普及啓発事業などが多かったが、それでも事業をしていくのは大変だった。（大森）

- 「創造事業」といっても 0 から創るものもあれば、地元の人と一緒に創るなど、いろいろなバリエーションがある。それを行っていくのは本当に大変なことだが、それができたらすごいと思う。これからは、働き方も従来のものだけでなく、新しいスタイルが考えられてくるだろう。いろいろな工夫をしながら、ぜひ実現させていただきたい。（大森）
- すべての事業が開館直後から実施できるわけではない。また、すべて 0 から創るものだけでなく、プロデューサーと一緒に創っていくという方法もある。創造事業を行っていくことは確かだが、どの段階でどこまでを劇場内で行うのかは大きなポイントになる。最初は全部オリジナルで創るのは難しいかもしれない。ただし、市民やプロと一緒に創っていくところから始まるのかと思う。創造事業をするにはお金も必要になる。この劇場でどれだけのことができるのかを考えていかないとならない。そのために、まず劇場が担うべき目標を示し、実現するための組織や運営を考えていくのが管理運営計画の役割である。（草加）
- ひとつの事業が本番中のときに、ある事業では企画中だったり、稽古中だったりする。本番だけを見ると単独のように見えるが、すべての公演の進行は重なってくるので、その体制に耐えられる組織を考えないとならない。（大森）

【運営組織について】

- 「公の施設」だということをきちんと認識することが必要。硬い言い方をすると、指定管理者は京都市長や市の代わりとなって施設を運営するために権力を行使することができる。単に劇場についてのノウハウがあるだけではだめで、公共が持つ課題などは当たり前のこととして知った上で運営をしなければならない。（宮崎）
- 「人材」という意味では、大きく分けて「地域のことに詳しい人材」と「舞台技術の専門人材」が混在している施設が多い。ロームシアター京都も（京都には専門の人材がいなかったので）劇場の専門人材としてかなりの人数が他の劇場から呼ばれてきた。一方で、これまでの施設が地域と積み重ねてきた信頼関係やネットワークを活かすために、京都の人材も一緒になり、混合チームで動いている。何度も申し上げているが、人が要になる。（宮崎）
- 劇場を運営する組織は単に管理運営を行うのではなく、法規制、文化芸術をとりまく情勢などを見極めた上で、劇場の運営をどう考えていくかという「経営」をしなければならない。それができる人材が必要になる。（宮崎）
- ロームシアター京都では年間 10 億近くの金額を動かしている。それだけでも大変なこと。そういったことがしっかりできることも必要になる。（宮崎）

- この施設の組織図の中で特徴的なのは、施設利用部門が事業部門に位置づけられていることだと思う。他の施設では施設利用部門と事業部門は離れていることが多い。（大森）
- 劇場はいろんな職能の人が活躍できる場。もちろん演劇などの専門性も必要だが、市民の人と一緒にやるファシリテーターや、印刷物の編集、広報、チケット販促など様々な能力が求められる。舞台芸術だけを知っていればいいわけではない。事業は人が動かしていくので、結局は「人間力」が重要になる。それができないと劇場は止まってしまうだろう。（大森）
- 指定管理者制度は「委託」ではなく「委任」であり、本来は市がやることの一部を委任され、指定管理者が市と一緒になって管理運営していくということ。ロームシアター京都は年間 10 億円を動かしているとのことだが、その多くは市が指定管理料として補っている。もちろん、劇場でも自己資金を確保するために外部から助成金を得たりしているが、多くは市が「文化振興」として投資している税金を使って、市の文化政策の一端として劇場を運営している。（草加）
- 施設利用部門を事業部門に入れている理由は、創造劇場として位置づけるためには施設全体の利用を事業部門がコントロールしていくのが望ましいと考えているからである。学芸、調査研究、営業、広報などを専門的に配置している公立施設もまだ多くはないが、それをしていかねばならないと考えている。（草加）
- そこはロームシアター京都でも日々議論をしながら進めている。営業広報については、いいものを多くの人に伝えていく努力が、これまで以上に必要になっていく。お客さんの立場からどう見てもらえるかを考えていく人が必要。地域との関係を考える人もこの中に入ってくるだろう。（宮崎）
- 施設管理の中では、ここには記載のない清掃やレセプショニストなどのセクションも必要になる。そこまで含めると劇場に関わる人はもっとたくさんになる。そういう人が、日々どう振舞うかにより劇場のイメージが変わるので、そこを担当する人も重要となる。（宮崎）
- 劇場で働いている人は、（外の人から）結構見られている。職員が明るく元気で働いていないと、「あそこの劇場は大丈夫か」と思われてしまう。企画制作だけでいえば、劇場の活動はきりがない。ものをつくれば完成があるが、創造型の劇場で作品を創ったとしてもそれで終わりではない。能力がある人ほど仕事が増えて疲れてやめていく。また、指定管理者では雇用期間が保



証されないなどの問題もある。いかに劇場で働くことを大事に思って、仕事が好きになってもらう環境を作っていくかが必要。専門性だけでなく日々のルーティンが大事になってくる。いろいろな要素があるので大変だが、面白い仕事でもある。（大森）

- 施設利用が非常に重要。事業部門がコントロールすると言っているが、「貸館よりも事業を優先する」という意図で事業部門がコントロールすると言っているわけではない。伝わり方に問題がないように気を配らねばならない。ロームシアター京都も貸館は非常に多く、貸館で行われる内容も含めて自主事業を考えている。けっして自主事業が優先という考え方ではない。（宮崎）
- 京都市の場合、他に京都コンサートホールというクラシックの専門のホールがあり、ある意味、音楽分野の事業はそこで完結している。ロームシアター京都でも音楽公演は行うが、数ある事業のうちのひとつ。例えば、映像と音楽をあわせたコンサートなどはロームシアター京都で行い、（いわゆる一般的な）クラシックコンサートは京都コンサートホールで行うという棲み分けをしている。だが、観客にとっては、どちらの施設で行っても同じなので、日頃から両館で情報交換をしたり、日程を調整したりということは行っている。また、会員組織は一緒にしているので、いままで来なかったお客さんにも、ロームシアター京都にも、コンサートホールにも来てほしいという思いがある。（宮崎）

【施設利用計画について】

- 大スタジオを発表で使いたいという需要もあるだろう。その場合 9 ヶ月の申し込みでよいか。1 年位前から予定を立てたい要望もあるのではないか。（大森）
- 申し込みをいつまで受付けるかについて、職員のシフトや清掃などにも影響するため、ロームシアター京都はどのホールも一ヶ月前までとしている。実態としては 2,000 席のメインホールを利用するのに直前に計画を立てる人はいないが、小さなホールでは練習したい、撮影したいなどの要望もある。ただし、状況等により、受け入れが可能かどうかできるだけ検討し、可能な場合は貸し出すことにしている。（宮崎）
- これだけのホールや諸室の受付けをしなければならないとなると大変。ロームシアター京都も毎月 3 つのホールの申し込みを受付けているが大変である。（宮崎）
- 受付時間は、ロームシアター京都は 9～17 時としている。9～17 時までであれば 1 人のシフトで回せるが、19 時までだと 2 人が必要になる。もちろん、事前に「18 時になるが受付けは可能か？」などの問い合わせがあれば、可能であれば対応をしている。受付時間を伸ばすならば、その分にかかる経費を市が支出しなければならない。（宮崎）
- 延長利用では、ポップスなどの公演は本番、バラシがおわって退館するのが 25 時

を超えたりすることもある。だが、それに対応できないと公演自体が行われなくなってしまうので、本番に限り延長を認めるなどで対応している。（宮崎）

【利用料金について】

- 料金に何が含まれているかが重要。例えば、舞台技術者は、（プランを考える助言をするのか、オペレーションまで手伝うのかなど）どこまでの仕事をするのか、楽屋の利用は含まれるかなど。ロームシアター京都は料金の中にレセプショニストが含まれている。表方のスタッフも、どこまで料金に含まれているかにより主催者側が手配するスタッフの人数が異なる。ロームシアター京都では別料金になるが、劇場のスタッフが音響デザインを行うこともできる。（宮崎）

【地域との連携について】

- 「市民」という言い方をしているが、公益性を持った劇場と考えると、必ずしも（対象は）岡山市民だけではない。倉敷市民や広島市民、高松市民にも協力してもらったり、お客さんになってもらったりなどということもある。これから人口が減っていく中では、交流人口を増やすことを考える必要があり、そのためにも近隣を含めて広い範囲での「市民」と考えたほうが良い。（大森）
- まちのにぎわいは 1 年、2 年という短期間で完成するというわけではない。5 年、10 年かかることなので、気長に、劇場のことを信じて一緒にやっていくという協働が必要になる。（大森）
- どんなに頑張ってシンポジウムや広報をしても、まだ「そんなものができるの？」という方々はたくさんいる。まずは新しく劇場ができることを知ってもらうということに注力しなければならない。ロームシアター京都も商工会議所や近隣のお店、団体などに、「新しい劇場ができますので、よろしくお願いします。」と話して回った。そういうことが一緒に何かをやったり、何かあったときに思い出してもらえるきっかけになる。（宮崎）
- 待っていても人は来ないので、来年度からは外にでて、積極的に働きかけるということもやっていきたい。（草加）

■パネリストプロフィール

宮崎 刀史紀（みやざき　としき）

早稲田大学演劇博物館を経て、KAAT 神奈川芸術劇場（2011 年 1 月開館）に勤務。開設準備室設立時からのメンバーとして、劇場の立ち上げとその後の運営に従事。庶務、施設、また教育普及・人材育成事業等を担当したほか、財団本部の企画経営担当として財団運営にも携わる。2014 年 8 月より現職。ロームシアター京都（2016 年 1 月開館）では、庶務、施設、貸館、店舗運営の調整など、事業・舞台技術以外の業務を担当し、劇場の立ち上げとその後の運営を担っている。 文化資源学会＜日本＞理事。日本文化政策学会理事。

大森 誠一（おおもり　せいいち）

1950 年岡山市生まれ。編集者とコピーライターの傍ら 92 年にアートファームを創立、2005 年に NPO 法人化。地域と舞台芸術をつなぐ創造発信・人材育成・鑑賞促進・普及啓発・協働連携事業のほか、自治体や公益財団との協働・プロデュース事業に取り組む。公立文化施設では岡山県天神山文化プラザ、倉敷市芸文館、静岡県舞台芸術センター、三原市芸術文化センターなどの自主・記念事業や共同製作事業を企画制作、チーフプロデューサーを務めたサンポートホール高松では予算計画・事業企画・広報宣伝・公演運営・アウトリーチ・市民協働などをマネジメント。団体として 01 年岡山芸術文化賞準グランプリ、02 年福武文化奨励賞、14 年岡山市文化奨励賞を受賞。

資　料　編

3.　プレ事業

■プレ事業実施概況

【平成 30（2018）年度　岡山芸術創造劇場(仮称)プレ事業一覧】

No.	事　業　名
1	ダンス・インキュベーション・フィールド岡山 「特別公演　ON-KO-CHI-SHIN　温故知新」
2	［実践型ワークショップ］ ひと･まち･つくるプロジェクト「わが町」ものがたり

１．ダンス･インキュベーション･フィールド岡山「特別公演 ON-KO-CHI-SHIN 温故知新」

（１）事業概要

岡山市第六次総合計画長期構想に基づき策定された、岡山市文化芸術振興ビジョンの基本テーマである「文化芸術を担う創造力豊かな人材の育成」として、身体表現を通じて様々なジャンルの文化芸術を融合し、岡山からの新しい総合的な文化芸術を牽引し、創造・発信することを目的として活動を行うダンス・インキュベーション・フィールド岡山が上演する、地元岡山を題材にしたオリジナル舞踊作品。

ダンス・インキュベーション・フィールド岡山メンバーのみならず、出演者の市民公募を行い、その方々も出演し、3 作品の上演を行う。

岡山市からは、みずほ倶楽部、岡山市ジュニアオーケストラ、岡山市ジュニア合唱教室のメンバーも出演する。また、ブルガリアの民族楽器ガドゥルカの演奏者ヨルダン・クラシミロフ・マルコフ氏ともコラボレーションを行っている。

様々なジャンルの芸術を融合させたアーティスティック・エンターテイメントステージとなっている。

（２）プログラム概要

■出演者市民公募オーディション

ア．平成 30（2018）年 7 月 28 日（土）西川アイプラザ 5 階ホール

イ．平成 30（2018）年 8 月 21 日（火）西川アイプラザ※

※台風接近のため、7 月 29 日（日）北ふれあいマスカットホールで実施予定を変更

■ブルガリア交流学校訪問ワークショップ

ア．岡山市立後楽館中学校

平成 31（2019）年 1 月 16 日（水）14：00～15：00

中学 1～3 年生　220 名

イ．岡山市岡山中央小学校

平成 31（2019）年 1 月 17 日（木）10：30～11：15

小学 6 年生　133 名

ウ．岡山市立中央小学校

平成 31（2019）年 1 月 17 日（木）14：00～14：45

小学 4 年生　120 名

■特別公演レッスン

夏合宿のほか、通常レッスン以外のレッスンを 30 日実施

（３）公演概要

■開催日時

平成 31（2019）年 1 月 13 日（日）　　13:30、18:00

平成 31（2019）年 1 月 14 日（月・祝）13:30　　　　（３回公演）

■会場

岡山市立市民文化ホール

■主催：岡山市／（公財）岡山市スポーツ・文化振興財団

共催：岡山県、おかやま県民文化祭実行委員会、（公社）岡山県文化連盟、

「第 16 回おかやま県民文化祭共催事業」

助成：公益財団法人福武教育文化振興財団

特別協賛：大和証券株式会社

デニム生地提供：株式会社ジャパンブルー、桃太郎 JEANS

■来場者

803 名

Dance Incubation Field Okayama
Dif*
【日時】
2019.1.13(日)
❶開場13:00　開演13:30
❷開場17:30　開演18:00
2019.1.14(月・祝)
❸開場13:00　開演13:30
【場所】岡山市立市民文化ホール
■Member
万代祐梨子
畑美里
小松愛実
相馬志歩
亀谷春香
小澤尚子
吉久裕子
高屋敷夏海
前田安菜
ダンス・インキュベーション・フィールド岡山 特別公演
ON-KO-CHI-SHIN
温　故　知　新
岡山芸術創造劇場（仮称）プレ事業
■公募出演者
赤嶺久美子
岡崎真理子
畑香奈絵
竹本一椛
■Super Extra
清水フミヒト
いいむろなおき
岡田吉加
■芸術監督
高谷大一
【チケット販売】全席自由
(公財)岡山市スポーツ・文化振興財団事務所
岡山シンフォニーホールチケットセンター／ぎんざやプレイガイド
一般:前売1,500円　当日2,000円
学生(高校生以下):前売800円　当日1,000円
■主　催　岡山市／(公財)岡山市スポーツ・文化振興財団
■共　催　岡山県、おかやま県民文化祭実行委員会、(公社)岡山県文化連盟
「第16回おかやま県民文化祭共催事業」
■助　成　公益財団法人 福武教育文化振興財団
■お問い合わせ (公財)岡山市スポーツ・文化振興財団 Tel.086-232-7811
■特別協賛
大和証券
Daiwa Securities
■デニム生地をご提供いただきました
株式会社ジャパンブルー
桃太郎 JEANS
beyond 2020

Dance Incubation Field
Okayama

ON-KO-CHI-SHIN
温　故　知　新

◉一部

Part 1　コンテンポラリーダンス作品

【悲哀のブルー　sorrow of blue　～夢二晩年の想い～】

「青山河」枕屏風に油彩という独特のスタイルで、山と女性の姿を大胆に配した作品がある。
故郷への想いや愛するという感情が幾重にも塗り込められた深い背景の青色は、色褪せることなく心の深くに届く。
失ってからわかる愛の深さ、離れて込み上げる郷愁は、今も色褪せることなく、現代に生きる。
その生み出す力、作り上げる生気こそ「今」を奮い立たせる根源である。

構成·演出·振付／**清水フミヒト**

作曲／**東大路憲太**

衣装／**本柳里美、岩戸洋一**

演奏／**ヨルダン·クラシミロフ·マルコフ**

ブルガリアの民族楽器カドゥルカ奏者。ガドゥルカの中心地であるトラキア地方のノヴァ·ザゴラ市出身。7歳の頃よりガドゥルカを習い始め、17歳には町の舞踏グループのアンサンブルとして活躍。シューメン大学音楽科卒業後、ノヴァ·ザゴラ市の音楽教室でガドゥルカとソルフェージュを教える傍ら、近くの村の子供たちに歌を教えたり、ライブ活動を行う。2006年1月来日。まだまだ日本では馴染みの薄いブルガリア音楽を紹介しようと活動を始める。

※東京2020オリンピック·パラリンピック競技大会に向けた、文化プログラムの参画事業（beyond2020）の認証を受け、ブルガリア共和国のホストタウンである岡山の地域性豊かで多様性にとんだ作品の創作を展開していくことで、岡山の文化活動の魅力を発信します。

Part 2　マイム作品

【AIR - 鳥人幸吉の夢】

鳥人幸吉こと浮田幸吉...
彼は空を飛ぶ鳥を見ながら、人間も空を飛べる！ そう確信したのです。
1785年夏、旭川に架かる京橋の欄干に立つ浮田幸吉...
彼は本当に空を飛んだのか...
そんな幸吉の夢（妄想）と夢（願望）の物語です。

構成·演出·振付／**いいむろなおき**

衣装／**田中秀彦（iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA）**

◉二部

【昔こっぷり】～岡山県の民話より～

民話には、その土地に暮らす人々の生活や、想いが色濃く
反映されています。喜びや哀しみ、権力者に対するレジスタンス。
それらは形を変えて、時には面白おかしく、時には残酷に語り継がれてきました。
そんな岡山の民話を4話取り上げたオムニバス形式の作品です。

構成·演出·振付／**高谷大一**

指揮／**小川聡**

作曲·編曲／**小川聡、高谷大一**

語り／**沖田喜一**

ピアノ演奏／**犬飼里余子**

演奏／**みずほ倶楽部、岡山市ジュニアオーケストラ**
　　　岡山市ジュニア合唱教室ジュニアクラス

ダンス·インキュベーション·フィールド岡山とは

岡山市と協働で活力あふれるまちづくりの一端を担うべく、若い世代の芸術性、人を引き付け感動させる力、創造性を育てることを目的として活動しています。
岡山からまったく新しいアートの波を発信、様々なジャンルの芸術を融合させたアーティスティック·エンターテイメント。それが、ダンス·インキュベーション·フィールド岡山です。

２．ひと·まち·つくるプロジェクト「わが町」ものがたり

（１）事業概要

岡山芸術創造劇場(仮称)が誕生するまちとして、岡山市表町街区の栄町・紙屋町・千日前・西大寺町・新西大寺町・京橋の物語 10 作品をつくり、朗読とパフォーマンスで構成・公開する。プロの演出と市民参加で創作した街頭劇を、まち歩きしながら鑑賞体験する。

以下の 4 つのプログラムを平成 30（2018）年 8 月から平成 31（2019）年 3 月にかけて展開。

- 書く創作（8～12 月）
- 読む創作（3 月）
- 街頭劇「まち歩きシアター」（3 月）
- アーティストトーク（3 月）

（２）実施概要

■書く創作

日程：平成 30（2018）年 8 月 25 日(土)、10 月 14 日(日)、11 月 11 日(日)、
12 月 15 日(土)

時間：各回 13:30～16:30

会場：丸の内テラス

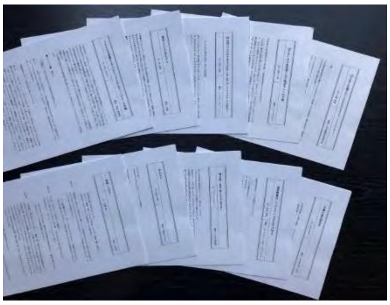
内容：栄町・紙屋町・西大寺町・新西大寺町・京橋地区の人々に取材し、地域の歴史や出来事、仕事や家族の今昔、暮らしの変化などを聞き書きする。記録に作者の主観や想像力を加えて、独白調・対話型・エッセー風など複数の短編作品を創作する。

参加者： 9 人（書く公募）

執筆委嘱：1 人

取材に先立ち商店街をフィールドワーク
（8 月）

参加者が各自のプランニング案を提出
（10 月）



聞き書きで創作した10作品の物語
（12 月）

■読む創作

日程：平成 31（2019）年 3 月 2 日(土)・3 日(日)・9 日(土)・10 日(日)・16 日(土)・17 日(日)

時間：各回 13:00～18:00

会場：丸の内テラス

内容：＜書く創作＞で表現された 10 作品を、講師の指導をもとにリーディング作品（10 分～15 分の朗読）として劇化。作者に加えて公募と委嘱で参加したリーディングメンバーによって練習が重ねられた。

参加者：12 人（読む公募）

朗読委嘱：3 人

1作品ごとに朗読のスタイル、出演者の動きや声色、会場の特性など、其々に多彩な表現が発揮された

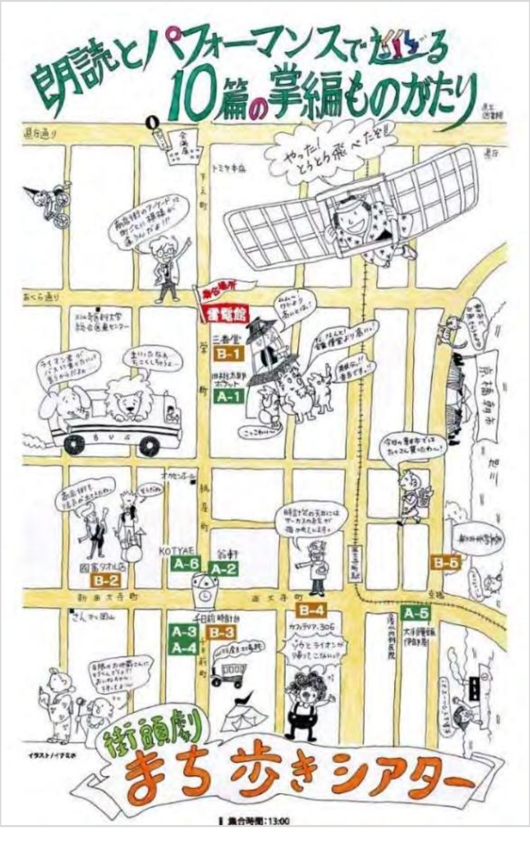
■街頭劇「まち歩きシアター」

日程：シアターA：平成 31（2019）年 3 月 23 日（土）
　　　シアターB：平成 31（2019）年 3 月 24 日（日）

時間：両日とも 13:30～15:00

会場：栄町（雷電館、三香堂、桃太郎ポケット）
　　　紙屋町（翁軒、コチャエ）
　　　千日前（時計台周辺）
　　　新西大寺町（国富タオル）
　　　西大寺町（カフェテリア 306）
　　　京橋（大手饅頭伊部屋・清水内科医院駐車場、表具師幸吉顕彰碑附近）

内容：表町商店街から京橋にかけて 8 ヵ所の発表会場を 2 日間に分けて設置し、それぞれの会場を順次巡りながら、10 篇の朗読とパフォーマンスを移動上演した。公演にあたっては、商店の店頭やカフェの店内や店舗の駐車場などを舞台にさせていただいたり、日限の縁日イベントと連携したり、岡山芸術創造劇場（仮称）が整備される地域との協力・コラボレーションの中で開催された。



参加者：

観客：約 110 人（23 日約 50 人、24 日約 60 人）

朗読（市民参加）：15 人

運営スタッフ：11 人

栄町・桃太郎ポケット(23 日)

紙屋町・翁軒(23 日)

千日前・時計台(23 日)

新西大寺町・国富タオル(24 日)

西大寺町・カフェ 306(24 日)

京橋・旭川河畔(24 日)

■アーティストトーク

日時：平成 31（2019）年 3 月 23 日(土)　16:00～17:30

会場：紙屋町・KOTYAE（コチャエ）

内容：「まち歩きシアター」終演後に、舞台芸術アーティストによるポストパフォーマンストークを開催。まちと物語の出会いによる地域の魅力についてや、新しい劇場の誕生するまちの未来について語り合った。

発言：沖田善一、小野寺修二、申瑞季、カミイケタクヤ、角ひろみ、古市福子

（五十音順）

参加者：聴衆：46 人、講師等：7 人

（３）主催

岡山市／特定非営利活動法人アートファーム

岡山芸術創造劇場（仮称）プレ事業

ひと・まち・つくるプロジェクト

〜新しい公立劇場を交流と創造のひろばに〜

「わが町」ものがたり

街頭劇「まち歩きシアター」

新しい劇場の生まれるまち・岡山。川の流れとともに豊かな歴史を育んできた街区には、どんな営みや暮らしが息づいてきたのだろう。まちの人々に取材する「聞き書きワークショップ」と、創作した作品を街頭鑑賞する「まち歩きシアター」で構成する「わが町」ものがたり。アーティストと市民が出会い、まちの魅力はさらに深くなる――。

2019年3月23日(土)☆シアターA
24日(日)☆シアターB

栄町＋紙屋町＋千日前＋西大寺町＋新西大寺町＋京橋

物語にあふれている。

街頭劇「まち歩きシアター」

岡山芸術創造劇場（仮称）が誕生するまち—— 栄町・紙屋町・千日前・西大寺町・新西大寺町・京橋の物語１０作品を、朗読とパフォーマンスで巡る「まち歩きシアター」。プロの演出と市民参加で創作する街頭劇を、まち歩きしながら体感する２日間。物語に出会うと、まちはもっと面白くなる。

集合時間：13：00　集合場所：栄町「雷電館」（岡山市北区表町 2-6-64）
開　　演：13：30　終　　演：15：30（多少の前後あり）　終演後：アーティストトーク（23日 16：00～）
料　　金：鑑賞料はカンパ投げ銭方式。カフェ等でのドリンクは参加者負担

物語創作＆朗読

「聞き書きワークショップ」の参加者が取材し創作した作品と、委嘱した詩人・秋山基夫作品を加えた１０作品をリーディング。多彩で表情豊かな「わが町」の物語が誕生しました。

物語創作講師・朗読演出：角ひろみ

【3月23日（土）】☆シアターA

『紙芝居『うたたねを邪魔するやつはメッタメタにやっつけろ！大作戦』
　創作：すがあさみ
　朗読：山本康一、友國淳子、モリヤスクニコ、イチミホ
『調布くんと不老ちゃん』
　創作：岸和秀
　朗読：森本壮一郎、申瑞季
『時は待つことができる time can wait ～トミヤのルーツを求めて～』
　創作・朗読：景山主祐
『木下サーカス現団長・木下唯志さんへの手紙』
　創作・朗読：忍冬三和
『ひよ吉とお梅さん ～大手まんじゅう♪ピーヒョロピーピー～』
　創作：大塚利昭
　朗読：古市福子

【3月24日（日）】☆シアターB

『香流 ～かおる～』
　創作・朗読：友國淳子
『歩むなら』
　創作・朗読：河原彩花
『廻る街 ～映画で綴られた千日前今昔～』
　創作：モリヤスクニコ
　朗読：申瑞季
『惑星博覧会 パビリオン「OKAYAMA」』
　創作：河合穂高
　朗読：西園加（劇団アリクイロケット）、三村真澄、
　　　　こだま（演劇ユニット coicoi）
『京橋と表具師幸吉』
　創作：秋山基夫
　朗読：沖田喜一、山本康一、森本壮一郎

パフォーマンス＆美術

10篇の物語が移動上演される商店街や会場において、身体と造形によるコラボレーションが展開され、「まち歩きシアター」はより祝祭的なステージへ。

パフォーマンス演出：小野寺修二
出演：藤田桃子、大庭裕介、崎山莉奈、姜侖秀
美術：カミイケタクヤ

アーティストトーク

まちと物語の出会いによる地域の魅力再発見について、新しい劇場の誕生するまちの未来について、終演後に舞台芸術アーティストによるポスト・パフォーマンス・トークを開催します。

【3月23日（土）】16：00～

会場：紙屋町・KOTYAE（コチャエ）
発言：沖田喜一、小野寺修二、申瑞季、カミイケタクヤ、角ひろみ、
　　　古市福子（五十音順）

角 ひろみ

劇作家、演出家。兵庫県出身/岡山市在住。1995年「芝居屋坂道ストア」結成。関西を中心に東京公演なども行いつつ活動。2005年解散。2006年より岡山市に在住しながら、東京や関西や岡山などの多くの団体に台本を書き下ろしている。1999年『あくびと風の威力』で第４回劇作家協会新人戯曲賞佳作、北海道知事賞受賞。2007年『螢の光』で第４回近松門左衛門賞受賞。2014年『狭い家の鴨と蛇』で第20回劇作家協会新人戯曲賞受賞。2015年第16回岡山芸術文化賞準グランプリ受賞。

小野寺 修二

日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995年～2006年パフォーマンスシアター「水と油」。その後文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてフランスに滞在。帰国後カンパニーデラシネラを立ち上げる。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。岡山では、福武教育文化振興財団とアートファーム共同主催・学校でひらく舞台芸術教室『ロミオとジュリエット』（2014年/旧岡山市立内山下小学校他）、福武財団主催・犬島パフォーミングアーツプログラム『URA-SHIMA』（2015年/岡山市東区犬島）など。2015年度文化庁文化交流使。

カミイケ タクヤ

美術家。香川県出身/在住。「遭遇、経過、喪失」を移動という時間や景色や言葉などの中より模索。主には美術（インスタレーション、平面作品など）と舞台美術（演劇、ダンス、サーカスなど）を制作。岡山での実績は、2014年アートファーム創立20周年企画の演劇作品『狭い家の鴨と蛇』で舞台美術、2018年平成30年度天神山文化プラザ特別企画 天神山迷図「みえない物語」出展など。

秋山 基夫

詩人。神戸市出身/岡山市在住。詩集『旅のオーナー』（思潮社）、『キリンの立ち方』（山陽新聞社）、『秋山基夫詩集』（思潮社・現代詩文庫）、『神様と夕焼け』（和光出版）、『月光浮遊抄』（思潮社）など26冊。詩論集等『詩行論』（思潮社）、『岡山の詩100年』（和光出版）など。レコード・CD『ストロング』『オカルト』（CD/大朗読事務局）。主な受賞は第１回中四国詩人賞、第16回富田砕花賞、第64回山陽新聞賞、第3回岡山芸術文化賞グランプリ、第70回岡山県文化賞など。

古市 福子

俳優、演出家、古市福子プロデュース代表。岡山市出身。1952年「劇団あかしあの会」に入団。63年「劇団ひびき」を主宰。85年「古市福子プロデュース」を発足。併せて「古市福子朗読会」も継続している。岡山県天神山文化プラザ企画委員、岡山県演劇ネットワーク理事長、福武教育文化振興財団文化活動審査委員などを歴任。岡山県文化功労賞、文部科学省地域文化功労賞などを受賞。

藤田 桃子

日本マイム研究所の後、パフォーマンスシアター「水と油」に参加。その後小野寺修二が代表を務める「カンパニーデラシネラ」に参加。アートフェスティバルへの参加等劇場内にとどまらないパフォーマンスにも取組む。主な出演作として『あの大鴉、さえも』『竹取』瀬戸内国際芸術祭『人魚姫』（小野寺修二演出）、イデビアン・クルー『ハウリング』（井手茂太 振付・演出）など。

沖田 喜一

朗読グループの「朗読塾」、「言の葉二人会」、倉敷朗読「喜楽会」に所属。構成・演出を主として、積極的に出演もし、定期的に公演活動を実施。また、講演依頼に応じて、各地の公民館での朗読公演も行いながら、カルチャー講座の朗読基礎講座でも指導に努めている。

申 瑞季（シンソゲ）

三重県出身/岡山県奈義町在住。韓国ソウルの東国大学演劇映画学科で演劇を学ぶ。1999年青年団に入団、2017年菅原直樹主宰OiBokkeShiの公演に出演し翌年より岡山へ移住。現在は演劇療法士を目指しながら平田オリザの舞台を中心に活動を続けている。主な出演作は地点『三人姉妹』『かもめ』、サンプル『伝記』、青年団『ソウル市民』『隣にいても一人』など。

姜 侖秀（カンユンス）

韓国ソウル出身。イギリスの大学院でPhysical Theatreを専攻。6カ国のパフォーマーで結成した創作集団で芸術監督を歴任し英・日・韓で作品を発表。2016年岡山県真庭市へ移住し、空き家を活用した多国籍シェアハウス兼アーティストレジデンス「インターナショナルシェアハウス照ラス」を創設。ギリシャやコスタリカなどのアーティストを招いて様々な企画を地域で展開中。

大庭 裕介

中学・高校時代をアメリカで過ごし大学在学中に演劇を始める。劇団を立ち上げるも瞬く間に解散。その後、劇団青年団、劇団地点を経てカンパニーデラシネラに所属。演劇の他、ダンス公演、映画、CM等幅広く活動。

崎山 莉奈

幼少よりモダンダンスを始め、高校時代はhip-hopを習う。大学にてコンテンポラリーダンスを軸に活動。卒業後、和栗由紀夫に舞踏を師事。カンパニーデラシネラには2014年度から始まった、白い劇場シリーズより参加。

まち歩きシアター地区：JR 岡山駅より路面電車・東山線「西大寺町」下車
JR 岡山駅より路面電車・清輝橋線「新西大寺町筋」下車
集合場所：栄町「雷電館」（岡山市北区表町 2-6-64）

ひと・まち・つくるプロジェクトは、劇場の生まれる「わが町」を舞台に多様な市民参加による創造的なまちづくりの継続をめざしています。

岡山市は、岡山市民会館・岡山市民文化ホールに代わる「岡山芸術創造劇場（仮称）」の整備を、2022年度の開館をめざして進めています。本劇場が、これからの中心市街地の活性化や豊かな創造都市の発展につながるよう、また、市民の方々から共感と期待をもって迎えられるよう岡山市と NPO 法人アートファームは、協働で昨年度に続いて「ひと・まち・つくるプロジェクト」を実施いたします。

主催：
岡山市文化振興課
特定非営利活動法人アートファーム

お問合せ / お申込み：
特定非営利活動法人アートファーム
〒700-0823 岡山市北区丸の内１丁目 1-5 栗山ビル 402
TEL=086-233-5175　FAX=086-294-3764
E-mail=info@artfarm.or.jp
URL=http://www.artfarm.or.jp

協力：
岡山市表町商店街連盟
株式会社岡山専門店会館
公益財団法人セゾン文化財団
栄町「雷電館」
株式会社福岡屋
御菓子司「翁軒」
株式会社トミヤコーポレーション
木下サーカス株式会社
株式会社大手饅頭伊部屋
清水内科医院
京仏具「三香堂」
国富タオル店
株式会社吾妻寿司
カフェテリア・マザー・オブ 306
紙屋町「KOTYAE」
カンパニーデラシネラ
村上デザイン事務所
丸の内テラス

資　料　編

4.　整備に関する意見交換会

『魅せる』『集う』『つくる』の実現に向けて～
『岡山芸術創造劇場（仮称）』整備に関する意見交換会

1. 実施概要（日時・場所）

（1）趣　旨

現在、岡山市は、2022 年の開館に向けて『岡山芸術創造劇場（仮称）』の整備事業を進めており、本年度は開館後の運営を考える管理運営実施計画を検討するとともに、実施設計を行っています。

新劇場の施設概要に関する説明会と施設機能や整備内容などに対して参加型の意見交換会を行い、広く整備事業を周知するとともに意見を伺う機会とします。

（2）第 1 回

日　時：平成 30（2018）年 12 月 16 日（日）16：00～17：00

開　場：西川アイプラザ 5 階　ホール

来場者：約 50 名

（3）第 2 回

日　時：平成 31（2019）年 1 月 20 日（日）17：00～18：00

開　場：岡山シンフォニーホール　和風ホール

来場者：約 50 名

2. 意見内容

意見交換会で出された意見内容は、次頁以降のとおりです。

（１）第１回

	参加者からのご意見	意見への回答・対応等
ハード面		
大ホール	2 階のトイレが下手側にしかない。上手側にも設置できないのか。またトイレの待機列まで考えて配置されているのか。	ご指摘の点については承知していますが、設計の制約上実現できていません。なお、女性トイレについては、待機列が男性トイレと被らないように入口位置などを工夫して設計を進めています。
	ロビーから客席へ入る階段の形状が上手と下手で異なる。主催者や利用者が混乱するのではないか。	ご指摘の点については承知していますが、設計の制約上実現できていません。
	途中入場をする場合、お客さんはトイレの前の階段を使わないと上手から下手に移動できない。	ご指摘の点については承知していますが、設計の制約上実現できていません。
	楽器庫が上手にあるが、ピアノは下手に倉庫がないと調律などの際に不便になる。	ご指摘の点については承知していますが、設計の制約上実現できていません。
楽屋	特別室などはあるのか。	現在特別室の整備については、予定していません。
搬入場所	ハイキューブのコンテナなど海外基準のものに対応できるように配慮する必要があるのではないか。	ご指摘の点については承知していますが、牽引車両による搬入は設計の制約上実現できていません。本施設の管理運用等のオペレーションで対応を今後検討していきます。
	プラットフォームが狭い。大型トラックは 2 台つけられたほうが良い。	ご指摘の留意事項を踏まえ、今後の設計条件を取りまとめてまいります。
全般	「バリアフリー」という考え方はもはや遅れている。今は「ダイバーシティ」という考え方。その視点は足りないのではないか。	設計内容については、市「設計支援委員の意見を聴く会」において専門家等からご意見を伺い、障がいを持つ方の使い勝手の向上を図っております。それらも含め必要な事項については、今後も設計の中に引き続き取り入れてまいります。
	大ホールでのイベントを中ホールに投影したり、音声をつないで大ホールと中ホールを連携したイベントなどはできるのか。	舞台設備としては、そのような連携ができるように計画していきます。
	自由席や物販が並ぶ公演の場合、待機列の場所がなくなると思う。「賑わいスペース」にも並べるように調整をしたほうが良い。また、雨風をしのぐ意味でも吹き抜けでない方が良い。	ご指摘頂いた点を踏まえ、施設の運用について今後検討していきます。
	磁気ループなど障害者のための設備はある程度最初から想定したほうが良い。	市「設計支援委員の意見を聴く会」において専門家等からご意見を伺い、障がいを持つ方の使い勝手の向上を図っております。それらも含め必要な事項については、今後も設計の中に引き続き取り入れてまいります。

参加者からのご意見		意見への回答・対応等
ハード面（続き）		
全般	共用部分のトイレが少ない。練習室も大人数が利用することがあるので個数を増やして欲しい。	ご指摘頂いた点を踏まえ、施設の運用について今後検討していきます。
	練習室とホールの防音遮音。特に和太鼓は音がする。最初から干渉がないように特に配慮が必要。	ご指摘の留意事項を踏まえ、今後の設計条件を取りまとめてまいります。
	ピアノは市販されている中で一番大きなサイズのグランドピアノが通れる広さを確保した方が良い。	ご指摘の留意事項を踏まえ、今後の設計条件を取りまとめてまいります。
	客席形状について、見切れ席があるのではないか。	舞台の使い方によっては、客席からのサイトラインが制約される場合があります。想定されている客席数を確保しつつ、制約の少ないサイトラインが確保できるように検討をしてまいります。
	ホールエリア内にはエレベーターだけでなくエスカレーターも必要ではないか。	エスカレーターの設置も望ましいと考えますが、設置位置及び建設費の点で設置が難しいと考えております。
	大ホールと中ホールのロビーが同一フロアにあるというのは本当に大丈夫なのか。もぎりの設置位置が違うだけで観客は混乱するのではないか。大ホールと中ホールは使用用途が違うので入り口は分けたほうがいいと思うが、スペース的に難しいか。	ロビーの位置だけでなく、舞台の位置、搬入口の位置、楽屋の配置などを踏まえてより望ましい計画となるように設計を進めています。ただし、ハード面だけでは解決できない条件については、施設の運用面も含めて今後検討してまいります。
	ホールが隣り合っているということをもっと深刻に考えたほうが良い。一般の人は慣れてないので、人の整理をして並ばせるのも大変。同じ時間に公演が行われるということがとても懸念される。	ご指摘頂いた点については、改めて計画内容の検討を行いますが、施設の運用面も含めて今後検討してまいります。

	参加者からのご意見	意見への回答・対応等
ソフト面		
全般	受益者負担という考え方について。管理運営実施計画（素案）に「受益者負担の考えを基本に」と記載してあり、市内・市外の料金区分は差別化をしないとのことだが、「受益者負担」とはどのような意図に基づいて考えたのか。	本施設の管理において、「指定管理者制度」を導入すると「利用料金制」が導入される可能性があります。そのため利用料金を減免することは、指定管理者の収入を制約する原因となり、運営母体の経営を圧迫することが懸念されます。そのことからも、受益者負担を基本として検討しています。 また、市内・市外について料金区分を分けないのは、文化圏域と行政圏域が一致しないという前提に立ち、市外の方々も本施設を利用して岡山市民と交流して欲しいということを期待しています。 ただし、施設使用料等については、来年度策定予定の施設設置条例や具体的な運営方法などを検討する過程において、文化施設を利用している団体へのヒアリングや市民向けの意見交換会なども行いながら、引き続き慎重な検討を進めてまいります。
	「受益者負担」という言葉が「自己責任」という言葉に聞こえる。アマチュアは経済的負担が大きいと活動が続かなくなり、「創造劇場」の「創造」の部分がなくなる。団体に受益があるようにしてほしい。	施設使用料等については、来年度策定予定の施設設置条例や具体的な運営方法などを検討する過程において、文化施設を利用している団体へのヒアリングや市民向けの意見交換会なども行いながら、引き続き慎重な検討を進めてまいります。
	「岡山芸術創造劇場」は仮称とのことだが、一般的にわかりやすい名前を公募してはどうか。	「岡山芸術創造劇場」は、施設設置条例上の名称と考えています。愛称などについては、しかるべき時期に募集を行うことを考えています。
	使用料の設定でチケット料金の設定が 5,000 円以上だけだと借りにくい。2,000 円以上の低料金の設定も欲しい。	施設使用料等については、来年度策定予定の施設設置条例や具体的な運営方法などを検討する過程において、文化施設を利用している団体へのヒアリングや市民向けの意見交換会なども行いながら、引き続き慎重な検討を進めてまいります。
全　般		
	全国には様々な劇場があるが、どのレベルのホールを目指しているのか。	大ホール・中ホールそれぞれの規模や大スタジオ・大練習室などを含めた創造支援諸室を一カ所に集約した「創造型劇場」としては、中四国を代表する劇場になると考えております。今後は、本施設の施設機能を有効に生かせるように、創造事業の実施や管理運営の方法などのソフト面の充実を検討していきます。
	本日の意見等を今後どのように反映させていくのか。	年明けにも第 2 回目の意見交換会があります。その意見も受けて検討を進めてまいります。また、来年度以降もハード、ソフト両方について、検討を繰り返して行く予定です。

（２）第２回

参加者からのご意見		意見への回答・対応等
ハード面		
大ホール	大ホールは舞台芸術が専門のホールとして考えているのか。	大ホールは、岡山シンフォニーホールとの棲み分けで、音響反射板を備えていないホールとして計画をしています。 ただし、演劇や舞踊、オペラやミュージカルなどの舞台芸術だけではなく、JAZZ やポピュラー、吹奏楽など可能な範囲では、音楽催物にも利用していただく予定です。
楽屋	大ホールは 3 か所、中ホールは 2 か所に分かれているのは不便ではないか。	ご指摘の留意事項を踏まえ、今後の設計条件を取りまとめてまいります。
搬入場所	搬入口について。いまの市民会館よりも搬入が不便になっていないか。	大型のガルウイング車両を横付けしての荷下ろしができ、直接舞台に搬入できるデッキを計画しています。また、トラックの後方からの荷下ろしもできるデッキの計画となっています。
賑わいスペース	建物の中央が「賑わいスペース」として吹き抜けになっているが、吹き抜けにするよりもレストランやバーがあったほうがにぎわいに繋がるだろう。どのような意図があって吹き抜けとしたのか。	「賑わいスペース」については、再開発組合との調整の結果、現在のような施設計画となりました。商業施設に入る業種について岡山市が直接関与することは難しいですが、そこに計画される商業施設とは、一定の棲み分けをしていく必要があると考えております。
	吹き抜けに関してデッドスペースができてしまうのがもったいないと感じる。	賑わいスペースの吹き抜けについては、物理的に 3 階や 4 階にも床を設けることも可能ですが、建物の入口としての設えや全体の整備費用の点を踏まえて、現計画となっております。
全般	近隣ホールに勝る音響性能が備えられているか。	生音の音響については、岡山シンフォニーホールと棲み分けることを目的に、大ホールに音響反射板を備えない設計となっています。ただし、中ホールには音響反射板が備えられています。 電気音響設備については、両ホール共に近隣のホールと比較しても優れた設備が設置される予定です。
	ホールに見切れ席があるように見受けられる。舞台がみえない客席があるのではないか。	舞台の使い方によっては、客席からのサイトラインが制約される場合があります。想定されている客席数を確保しつつ、制約の少ないサイトラインが確保できるように検討をしてまいります。
	女子トイレよりも男子トイレの方が多いのではないか。	他の都道府県等の事例も踏まえた上で今の数に決定しており、男性トイレに比較して十分に多い女性トイレの数を計画しています。
	広い施設だが人手が足りないことを懸念している。ホワイエ部分を常に開放してほしいとの要望も出ているが、人手を考えると対応は難しいと思う。	全ての市民が集い、交流できる施設となるようにホワイエ部分を可能な限り開放することを検討しています。ご指摘の通り、今後運用の仕方やそのために必要な人材なども含めて、今後さらに具体的な検討を行っていきます。

	参加者からのご意見	意見への回答・対応等
ハード面（続き）		
全般	基本計画の時には大ホールは音楽中心、中ホールは演劇中心のホールということだったと思うが、実施設計にあたりどういったコンセプトでこの図面になったのか。	設計に当たっては、「整備に関する基本計画」に示されている事項を前提として計画を進めています。 大ホールは、岡山シンフォニーホールと役割分担をするということから音響反射板を持たないホールとして計画しています。 また、中ホールについては、市民文化ホールが音響反射板を備えていることに加えて、中規模の生音の響きが活かせるホールが岡山市内にはないことから、音響反射板を備えるホールとすることとして計画しています。
ソフト面		
全般	ものを創る劇場となると大道具や衣裳などを保管しておくこともあると思うが、倉庫はどの程度確保されているのか。 常に使用する椅子や机はいちいち運んでくるのではなく、利用しやすい場所に置いてほしい。上手に空間が利用できるよう、十分に配慮していただきたい。	ある程度の収納スペースは建物内に確保していますが、演劇などの大道具を格納しておくためのスペースまでが確保できているわけではありません。今後、創造事業のレパートリー化などを踏まえて、必要に応じて、そのための空間を確保していくことになります。
全　般		
	新劇場が開館する前日まで、現在の市民会館や市民文化ホールは利用できるのか。	既存施設の需要が満たせない期間がないように計画を進めております。
	「東京の演劇も来る場所にしたい」と言われていた。市民や参加者の意思だとは思うが、ある程度真面目でない場所にするのか。真面目になりすぎると面白くなくなってしまうこともある。	東京の演劇も含めて、多様な芸術文化を発信できる劇場となるように検討していく予定です。
	先ほど「今後もこういう機会を設けて、情報公開をしていく」と言われていたが、運用に関してのこのような意見交換会は今後開催されるか。	来年度策定予定の施設設置条例や具体的な運営方法などを検討する過程で、これまでの既存施設を利用されてきた団体へのヒアリングや市民向けの意見交換会などを行いながら検討を進めてまいります。

『岡山芸術創造劇場(仮称)』管理運営実施計画

平成 31（2019）年 3 月

岡山市市民生活局文化振興課

〒700-8544　岡山市北区大供一丁目１－１

TEL　０８６－８０３－１０５４

FAX　０８６－８０３－１７６３